

平成 25 年 度

(平成 24 年度事業対象)

桶川市教育委員会

点検評価報告書



平成 25 年 8 月

桶川市教育委員会

はじめに

本格的な地方分権時代を迎え、これからのまちづくりは、行政はもとより市民や企業などの多様な主体が協働し、地方のことは地方で決めるという基本姿勢が必要なことは言うまでもありません。

このような中、桶川市では、新たに平成23年4月より次の10か年を期間とした「桶川市第五次総合振興計画」をスタートさせ、「みんなで つくり 育む 活気あふれる交流拠点都市 おけがわ」を将来像とするまちづくりを推進しています。

こうした中、子どもたちが安心・安全に学び、子育て世代が安心して子育てができる環境づくりや市民との協働による生涯学習・生涯スポーツの推進を図ること等が求められており、桶川市教育委員会では、次の6つの柱を基本に教育行政にあたっています。

- 1 心身ともに健やかに成長できる幼児期における家庭教育の支援
- 2 豊かな心と確かな学力を育み体力を向上させる学校教育の推進
- 3 家庭と地域の連携の下に青少年の社会性を育む環境づくりの推進
- 4 市民との協働による生涯学習スポーツの推進
- 5 生命を大切にし、人権を尊重する教育の推進
- 6 文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進

教育行政を進めていく中で、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会事業の点検及び評価をし、その内容を公表することが義務付けられております。

この点検及び評価も5年目を迎え、過去の評価を踏まえた事業の展開の検証やさらに今後の方向性を示すことにより、より効果的な教育行政を推進していこうと考えておりますので、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

平成25年8月

桶川市教育委員会

教育委員名簿

(平成25年8月1日現在)

委員長	岡 野 千枝子
委員長職務代理者	湯 浅 哲 朗
委 員	小野原 典 子
委 員	水 村 実 男
委 員	佐 藤 悦 代
委 員 (教育長)	真 尾 正 博

目 次

I 趣旨、点検及び評価の基本方針

II 教育委員会の事務に関する点検評価結果（点検評価シート）

課（館）	第五次総合振興計画の施策	事業名	P	
教育総務課	就学前教育の支援・充実	幼稚園就園奨励事業	1	
		入学準備金貸付事業	3	
	学校教育の充実	小・中学校図書購入事業	5	
		小学校整備事業	7	
		中学校整備事業	9	
学校支援課	学校教育の充実	小・中学校給食業務	11	
		補助員配置事業	14	
		学校図書館教育補助員配置事業	16	
		英語指導助手配置事業	17	
		小学校理科支援員配置事業	19	
		教育相談事業	21	
		中学生社会体験チャレンジ事業	23	
		進路意識啓発事業（ふれあい講演会）	25	
		ことばの教室事業	26	
		桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業	27	
		学校応援団推進事業	28	
		教職員の資質・能力の向上推進事業	29	
学校支援課 学務課	学校教育の充実	就学援助事業	31	
学務課	学校教育の充実	教職員の管理業務	33	
		教職員の資質・能力の向上推進事業	35	
		学校評議員会の設置事業	37	
		学校関係者評価委員会の設置事業	38	
生涯学習 スポーツ課	就学前教育の支援・充実	P T Aリーダー研修会	39	
		P T A家庭教育講演会	40	
		「親の学習」講座	42	
	青少年の健全な育成	成人式典	44	
		放課後子ども教室事業	46	
		青少年健全育成事業	48	
	生涯学習・生涯スポーツの充実		生涯学習情報の提供とサポート事業	51
			市民大学の開催	53
			職員出前講座	56
			パソコン講習	57
文芸桶川発行			58	

課（館）	第五次総合振興計画の施策	事業名	P
生涯学習 スポーツ課	生涯学習・生涯スポーツの充実	学習ボランティア推進事業	60
		生涯学習推進体制の整備	62
		総合型スポーツクラブ支援事業	64
		スポーツ指導者育成事業	65
		スポーツ団体への支援事業	66
		スポーツ施設維持管理事業	67
	人権教育・啓発と平和の推進	人権教育の推進	68
	文化・芸術の振興・保存・継承	文化財説明板設置事業	70
		指定文化財保存管理交付金交付事業	71
		民俗芸能保存事業交付金交付事業	73
		指定文化財等展示活用事業	75
		後谷遺跡出土品保存処理事業	76
		指定文化財調査事業	77
公民館	就学前教育の支援・充実	少子・高齢化対応事業	78
	生涯学習・生涯スポーツの充実	公民館業務運営事業	80
		講座開催事業	82
図書館	生涯学習・生涯スポーツの充実	管理運営事業	84
		図書館業務推進事業	86
歴史民俗 資料館	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習センター管理事業	88
	文化・芸術の振興・保存・継承	歴史民俗資料館の運営事業	90

1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条により、教育委員会は、毎年、教育長に委任した事務を含め、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされています。この報告書は、同法に基づき、桶川市教育委員会が行った点検及び評価の結果をまとめたものです。

2 点検及び評価の基本方針

(1) 目的

桶川市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会へ報告するとともに市民に広く公表することを目的としています。

(2) 点検及び評価の対象と方法

桶川市では、新たに平成23年4月より次の10か年を期間とした「桶川市第五次総合振興計画」がスタートし、教育行政の基本方針もこの計画を基に策定していることから、各課（館）で実施している個別事業を点検及び評価の対象とし、評価方法については、個別事業ごとに「桶川市第五次総合振興計画」の「施策の大綱」、「施策」、「基本事業」を選択し、「事業実績」、「実績に対する評価」、「25年度以降の取組み」について点検及び評価を実施しています。

3 事業体系

平成24年度に桶川市教育委員会が実施した事業体系は、次頁のとおりです。

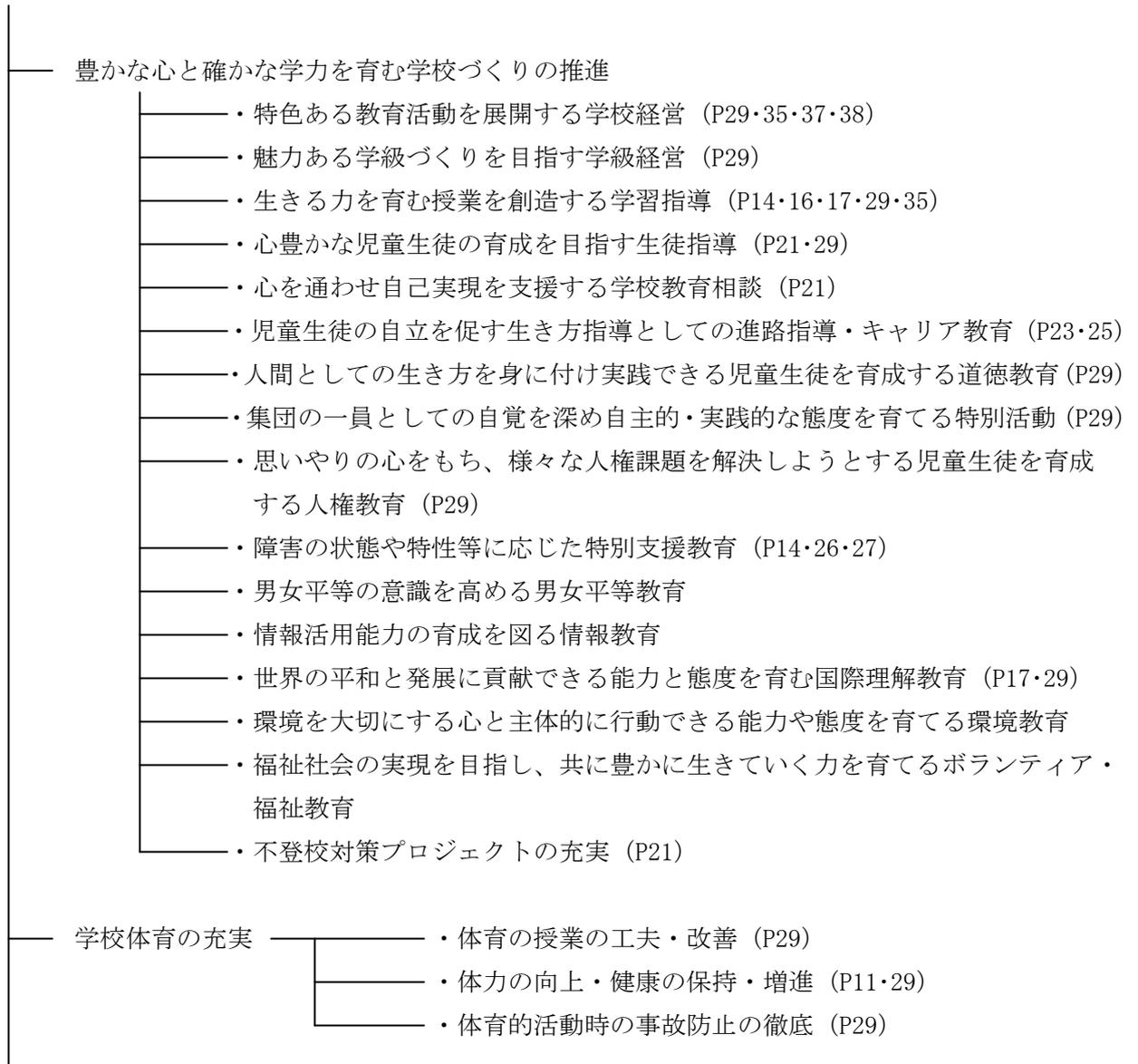
※平成24年度「桶川の教育」より

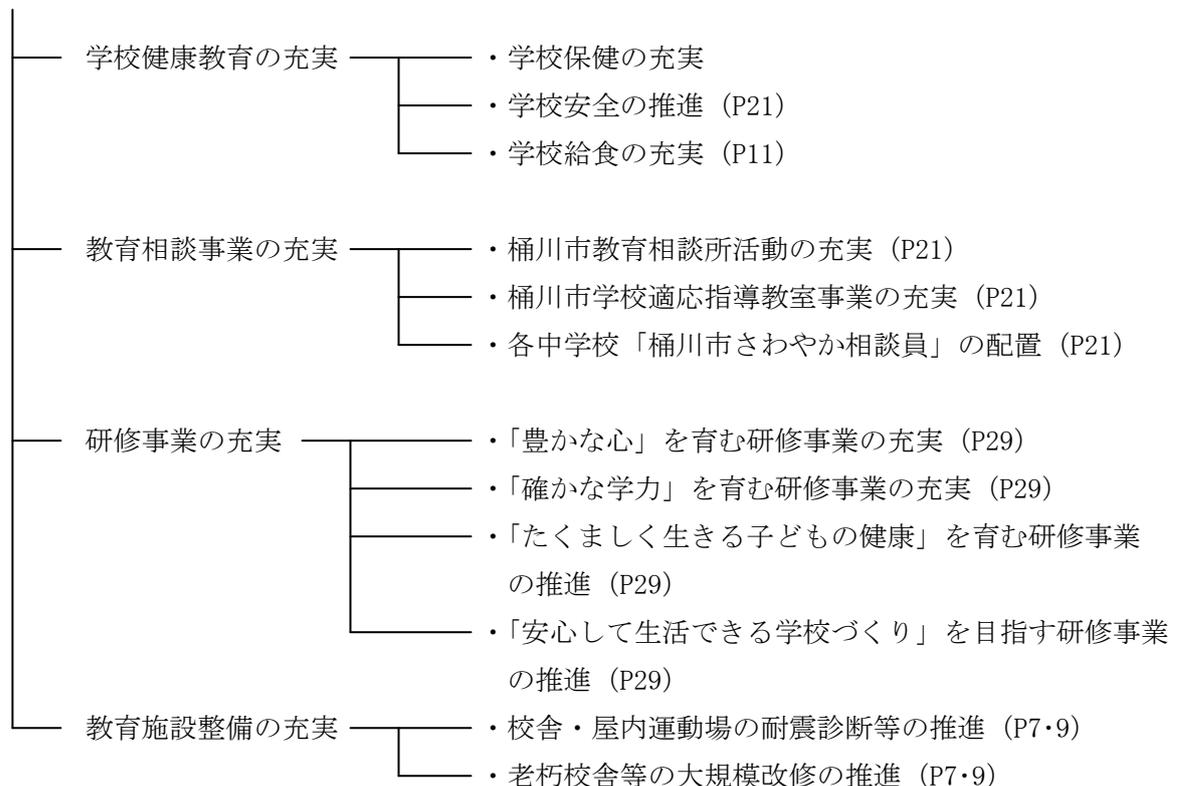
平成 24 年度桶川市教育委員会事業体系図

1 心身ともに健やかに成長できる幼児期における家庭教育の支援

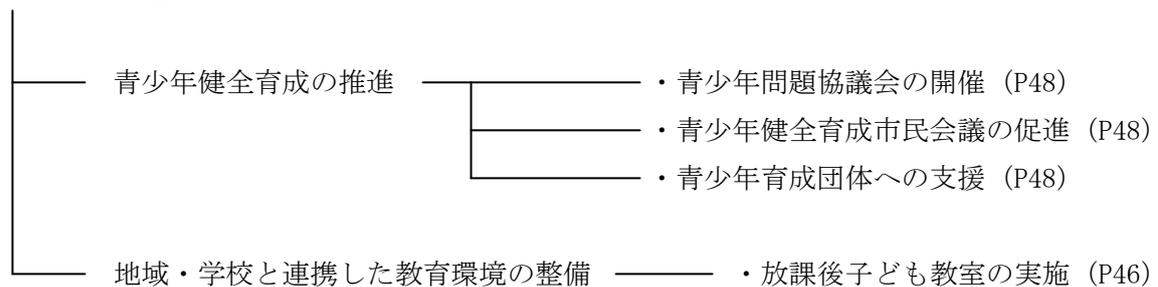


2 豊かな心と確かな学力を育み体力を向上させる学校教育の推進

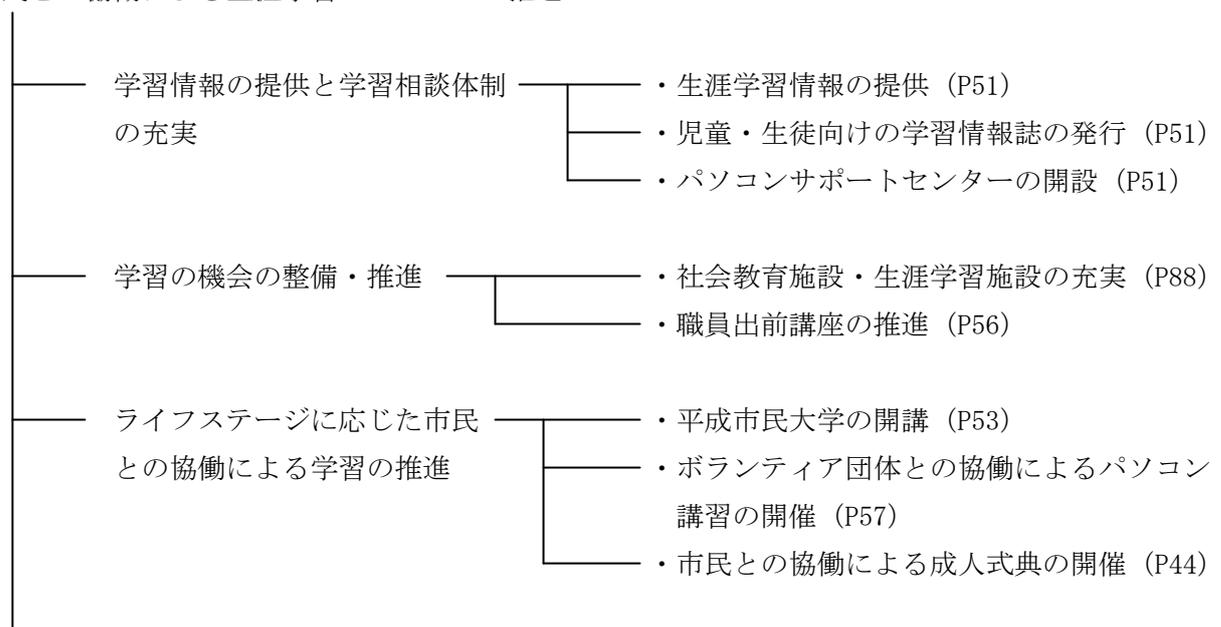


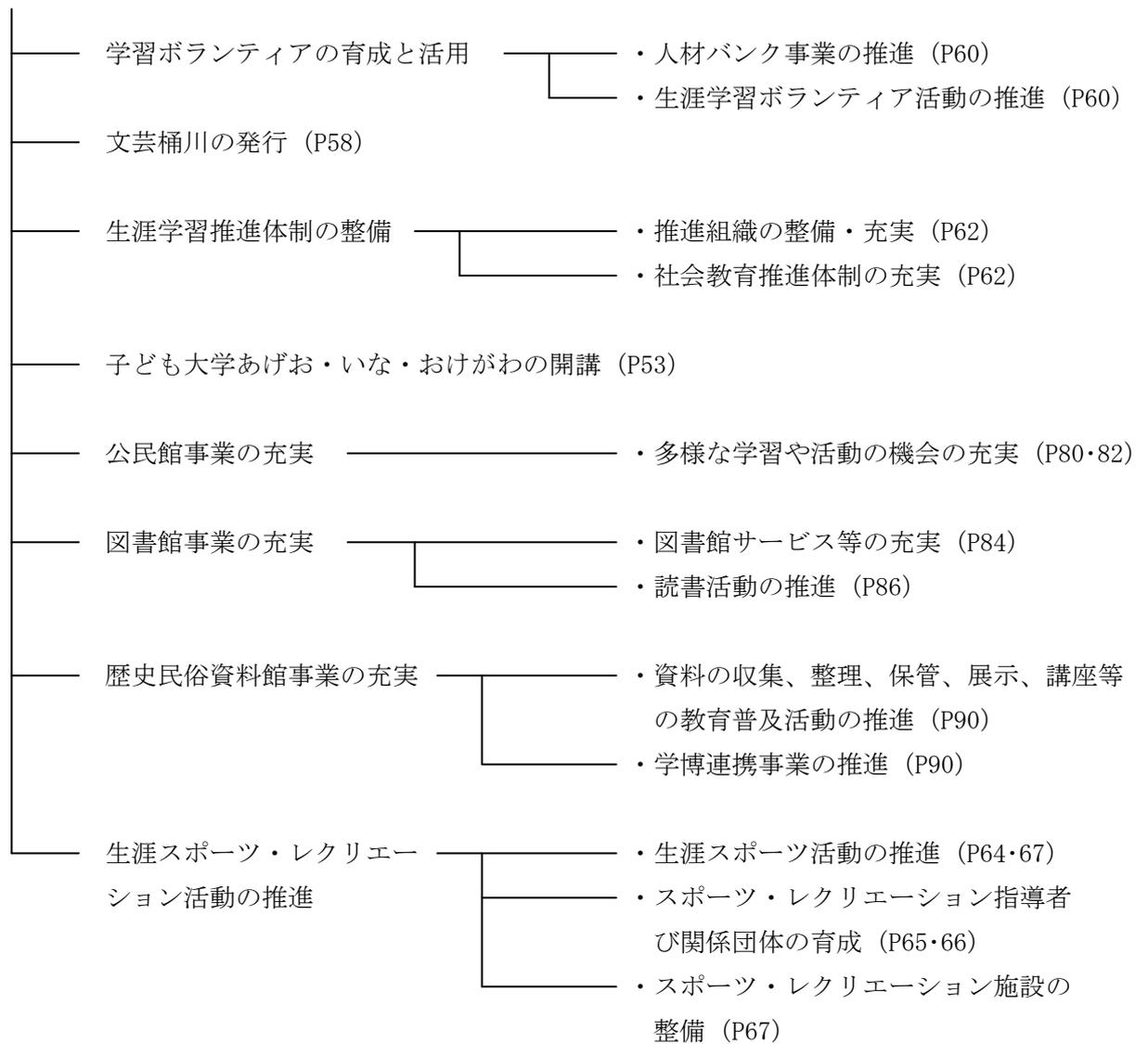


3 家庭と地域の連携の下に青少年の社会性を育む環境づくりの推進

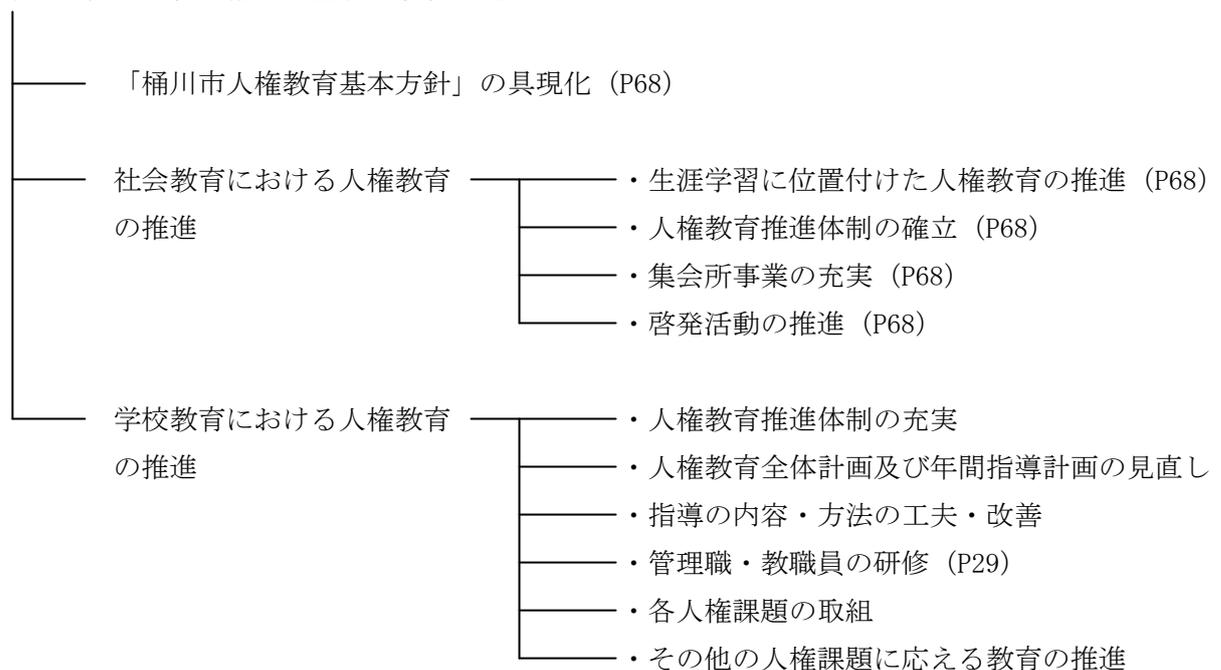


4 市民との協働による生涯学習・スポーツの推進

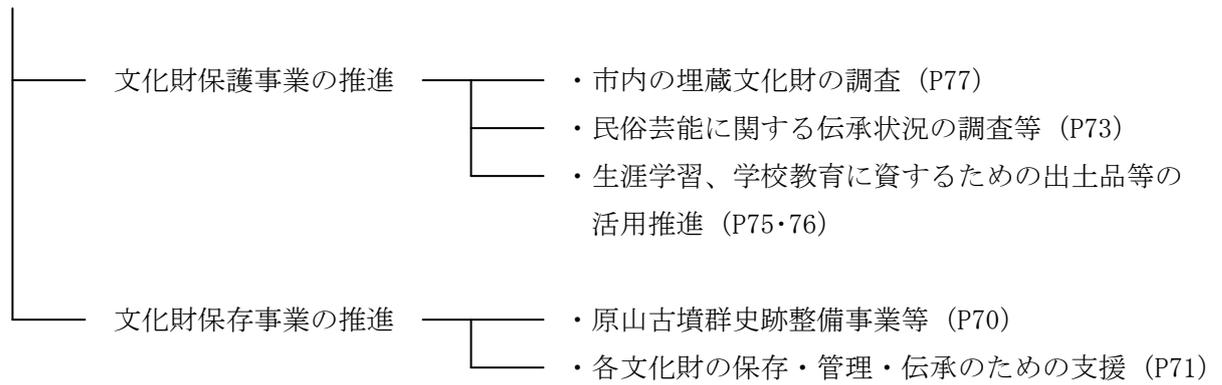




5 生命を大切にし、人権を尊重する教育の推進



6 文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進



点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基 本 事 業	幼稚園就園奨励費の拡充（2013）		
事 業 名	幼稚園就園奨励事業	教育総務課	
予 算 額	107,226,000 円	決 算 額	106,476,400 円

1. 事業概要

保護者負担を軽減するため、幼稚園設置者の協力を得て保護者に対し就園費用の一部を補助し、幼稚園への就園を奨励した。

2. 事業実績

(1) 幼稚園就園奨励費補助金

国庫補助対象分として1,070人、104,358,500円、市単独補助分として308人、2,117,900円を補助した。

(補助金支給児年齢別内訳)

- ・国庫補助対象分 満3歳児18人 3歳児267人 4歳児372人 5歳児413人
(所得制限あり)
- ・市単独補助分 満3歳児4人 3歳児88人 4歳児98人 5歳児118人
(上記に該当しない者)

○過去5年間の推移

年度	国庫補助		市単独		合 計	
	補助額(円)	支給児数(人)	補助額(円)	支給児数(人)	補助額(円)	支給児数(人)
20	77,988,500	987	2,737,000	391	80,725,500	1,378
21	90,125,200	1,011	2,240,000	320	92,365,200	1,331
22	98,252,200	1,074	1,841,000	263	100,093,200	1,337
23	102,100,900	1,064	1,950,400	282	104,051,300	1,346
24	104,358,500	1,070	2,117,900	308	106,476,400	1,378

(2) 私立幼稚園事務費助成金

幼稚園の事務に対する補助として、市内幼稚園設置者（7園）に総額304,800円を交付した。

3. 上記2に対する評価

幼稚園設置者の協力のもと、保護者からの申請に基づき補助金を交付したが、交付基準に沿って遅滞なく交付事務を完了することができた。保育料等に対する補助を行うことで通園している園児の保護者の経済的負担の軽減が図られ、幼稚園への入園がより促進された。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

(1) 「今後も保護者の経済的負担の軽減を図るため、補助単価の増額の要望、市単独補助金の増額について検討するとともに、財政負担のあり方等について、他市の状況も参考に検討する。」としていたが、国庫補助対象分の補助単価については国の増額に合わせて増額することができたが、市単独補助分の補助単価については増額（7,000円→8,000円）で予算要求したが、財政状況、近隣市町の状況から現状維持となった。

(2) 「幼保一元化の制度の議論がされているが、今後、そうした取組みに対する影響を見守り対応の検討をしていく。」としていたが、国の動向に合わせて平成 25 年度中に市長部局への所管替えについて市長部局と調整を行うこととした。

4. 25 年度以降の取組み

- (1) 今後も保護者の経済的負担の軽減を図るため、補助単価の増額を国に要望する。
- (2) 国の幼保一元化政策に合わせて、市長部局への所管替えについて市長部局と調整する。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基 本 事 業	学校教育への支援の充実（2022）		
事 業 名	入学準備金貸付事業		教育総務課
予 算 額	6,000,000 円	決 算 額	3,800,000 円

1. 事業概要

桶川市における教育水準の更なる向上と教育を受ける機会の均等を図ることを目的に、経済的に困難な生徒の保護者に対して高等学校・大学・専門学校等への入学にかかる費用の貸付を行う。

2. 事業実績

(1) 貸付状況

平成24年度の貸付申込者は14名であったが、3名が辞退、11名については審査の結果貸付を実施した。辞退については、進学状況の変更等申込者の自己都合によるものである。

〔過去5年間の貸付実績の推移〕

年度	貸付金額 (円)	件数	内 訳 (件)	備 考 (当年度の中学卒業生数(人))
20	2,000,000	8	高校 6、専門学校 0、大学等 2	702
21	5,800,000	21	高校 11、専門学校 2、大学等 8	697
22	5,300,000	16	高校 5、専門学校 0、大学等 11	656
23	5,400,000	16	高校 5、専門学校 0、大学等 11	710
24	3,800,000	11	高校 2、専門学校 1、大学等 8	686

貸付限度額：高校・専門学校20万円 大学等40万円

(2) 申請受付について

市民の利便性の向上を図るため、夏のAO入試等に合わせて申請受付開始を10月から9月に早めて実施した。

また、市広報やホームページにて貸付制度の周知を図っている。

なお、申請にあたっての保証人を平成23年度より連帯保証とし、債権の確保に努めているが、申請にあたっては、保証人のあり方を関東甲信越に拡大し、利便を図っている。

(3) 貸付残高

平成24年度末における貸付残額及び過年度における未償還額は、以下のとおりである。

貸付残額	14,215,000 円
過年度未償還額	1,460,000 円

返済期限を過ぎて未償還となっている貸付については、催告を適宜行うほかに対象者の調査を随時実施している。

3. 上記2に対する評価

(1) 貸付状況

貸付件数については、平成21年度以降500万円を超える貸付が続いていたが、24年度は380万円と大きく下がった。ただし、申請時点では480万円の申請があったため、経済的に困難な方が教育を受ける機会を得ることに寄与できた。

今後も経済的に困難な方が教育を受ける機会を得られるよう、引き続き予算額を確保する。

(2) 申請受付について

市民の利便性の向上を図るため、夏のAO入試等に合わせて申請受付開始を10月から9月に早めたが、その期間中の申請はなかった。受付開始時期については、今後の動向を見て検討する。

(3) 貸付残高

償還困難となっている長期滞納案件について調査を行った結果、今後の債権管理の中で対応するための資料を得た。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

(1) 「引き続き、長期未返済者については、訪宅徴収するなど滞納整理の強化を図る。」としていたが、長期未返済分については催告書により納付を促し、4名から計57,500円の未返済分の回収を行った。また、今後新たな未返済者を増やさないよう、現年分について納期限内に納付のなかった者について、訪宅、電話連絡及び納付書の送付により納付を促した。

(2) 「現在、申請受付開始は10月からであるが、夏のAO入試等もあり受付開始時期を早め、市民の利便性の向上を図る。」としていたが、9月から受付を開始し、市民の利便性の向上を図ることができた。

(3) 「生活支援という事業であることから、福祉サイドでの窓口一本化について、24年度に予定されている「課題ヒアリング」など各課の課題を全庁的に検討する場で関係部署と検討していく。」としていたが、24年度中は関係部署との具体的な協議には至らなかった。

4. 25年度以降の取組み

(1) 貸付金の償還

引き続き、長期未返済者の滞納整理を行うとともに、新たな未返済者を増やさないよう現年分についての納付催告にも重点を置く。滞納整理にあたっては、前年度までの調査結果に基づき、債権の回収を一部停止することも検討する。

(2) 申請窓口の検討

生活支援という事業であることから、福祉サイドでの窓口一本化について、25年度以降「課題ヒアリング」など各課の課題を全庁的に検討する場で関係部署と検討していく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	小・中学校図書購入事業	教育総務課	
予算額	5,940,000円	決算額	5,936,589円

1. 事業概要

小・中学校の図書室の蔵書の充実を図り、学習環境を整備するため図書を購入した。

2. 事業実績

小・中学校全体で5,920,000円の予算を、充足率の低い学校を中心に配当し、図書を購入した。

購入金額：小学校決算額 3,377,475円 中学校決算額 2,559,114円

[平成24年度小学校図書室蔵書数等]

(冊)

学校名	標準冊数	23年度末冊数	購入冊数	廃棄冊数	24年度末冊数
桶川小	12,160	13,724	202	340	13,586
桶川西小	11,360	9,584	432	0	10,016
加納小	8,360	7,164	379	123	7,420
川田谷小	8,360	8,471	222	300	8,393
桶川東小	10,960	9,376	390	0	9,766
日出谷小	9,560	7,901	433	0	8,334
朝日小	10,360	10,539	231	137	10,633
小学校全体	71,120	66,759	2,289	900	68,148

[平成24年度中学校図書室蔵書数等]

(冊)

学校名	標準冊数	23年度末冊数	購入冊数	廃棄冊数	24年度末冊数
桶川中	13,600	11,601	687	0	12,288
桶川東中	13,120	11,601	540	349	11,792
桶川西中	13,120	14,699	240	200	14,739
加納中	9,600	8,996	291	157	9,130
中学校全体	49,440	46,897	1,758	706	47,949

[平成24年度末学校別充足率]

(%)

学校名	充足率	学校名	充足率	学校名	充足率
桶川小	111.7	桶川東小	89.1	桶川中	90.4
桶川西小	88.2	日出谷小	87.2	桶川東中	89.9
加納小	88.8	朝日小	102.6	桶川西中	112.3
川田谷小	100.4			加納中	95.1
小学校全体	95.8			中学校全体	97.0

※充足率＝実図書保有数／国基準による標準図書冊数×100

3. 上記2に対する評価

24年度末蔵書数は、廃棄本の数がそれほど多くなかったことから前年度よりも増加し、充足率もアップしたことから図書室環境の充実を図ることができた。

〔過去5年間の小・中学校別充足率の推移〕 (%)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
小学校	94.4	93.4	85.6	93.6	95.8
中学校	106.3	97.7	89.6	93.8	97.0

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「図書室の環境整備については、充足率の低い学校を中心に図書の購入を行うとともに、充足率アップ以外に各校における図書室環境の改善についても検討していく。」としていたが、24年度は国からの補助金がなかったため、通年予算を充足率の低い学校を中心に配当して購入した。

その結果、充足率は小学校全体で前年度比2.2%増の95.8%、中学校全体で3.2%増の97.0%となり図書室環境の充実を図ることができた。

4. 25年度以降の取組み

今後も、継続的に図書の購入を進めていく。各学校における蔵書数や内容の充実の他、指導計画に応じた図書を揃えるなど、各学校の特色を出しながら図書室の蔵書を充実させるとともに充足率アップを図る。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	小学校整備事業		教育総務課
予算額	528,077,000 円	決算額	145,183,433 円 ※25年度繰越額 345,600,000 円

1. 事業概要

小学校施設整備事業

2. 事業実績

(1) 業務委託関係

- ① 小学校屋内運動場の耐震工事のため次の業務を委託した。
 - ・桶川西小学校屋内運動場耐震補強工事等監理委託 2,362,500 円
- ② 小学校給食室改築のため次の業務を委託した。
 - ・川田谷小学校給食室改築工事設計委託 9,009,000 円
 - ・川田谷小学校給食室改築工事地質調査業務委託 1,407,000 円
 - ・川田谷小学校給食室改築工事監理業務委託については、25 年度に繰越（繰越額 4,600,000 円）し、委託する。
- ③ 今後実施する小中学校の大規模改修を計画的に進めるため、基礎資料作成の業務を委託した。
 - ・小中学校老朽化対策調査業務委託 5,985,000 円
- ④ 基礎資料を基に現況調査を実施し、施設データの管理システム構築の業務を委託した。
 - ・施設台帳作成業務委託 4,089,750 円

(2) 工事関係

- ① 小学校屋内運動場の耐震補強工事を実施した。
 - ・桶川西小学校屋内運動場耐震補強等工事 101,325,000 円
- ② 小学校屋外プールの改修工事を実施した。
 - ・加納小学校プール改修工事 13,650,000 円
- ③ 小学校給食室改築のため次の工事を 25 年度に繰越し、工事を行う。
 - ・川田谷小学校給食室解体等工事 27,600,000 円
 - ・川田谷小学校給食室建築等工事 246,300,000 円
 - ・川田谷小学校給食室太陽光発電設備設置工事 11,100,000 円
- ④ 小学校揚水ポンプの改修工事を実施した。
 - ・桶川東小学校揚水ポンプ改修工事 3,549,000 円
- ⑤ 小学校体育小屋の改築工事を実施した。
 - ・川田谷小学校体育小屋改築工事 4,725,000 円
- ⑥ 桶川小学校外壁改修工事については、25 年度に繰越（繰越額 56,000,000 円）し、工事を行う。

3. 上記2に対する評価

- (1) 学校施設の耐震化推進計画に基づく屋内運動場の耐震補強工事は全て完了した。
- (2) 小中学校施設改修基本方針に基づき、プール、体育小屋、給食室の改修を実施した。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

- (1) 老朽化した施設や設備を計画的に改修するため、改修の基本方針に更に具体的な検討を加えた計画策定づくりについては、引き続き実施して行く。
- (2) 小学校の耐震補強工事は全て完了した。
- (3) 施設の修繕については、予算の範囲内で対応した。

4. 25年度以降の取組み

- (1) 学校施設全体について中長期的な整備方針を策定し、計画的で一貫性のある改修工事を実施して行く。
- (2) 施設の修繕については、予算の範囲内で積極的に実施していく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	中学校整備事業		教育総務課
予 算 額	271,529,000 円	決 算 額	154,581,771 円 ※25年度繰越額 110,000,000 円

1. 事業概要

中学校施設整備事業

2. 事業実績

(1) 業務委託関係

- ① 中学校屋内運動場の耐震補強工事のため次の業務を委託した。
 - ・桶川東中学校屋内運動場耐震補強工事等監理委託 2,709,000 円
- ② 今後実施する小中学校の大規模改修を計画的に進めるための基礎資料作成の業務を委託した。
 - ・小中学校老朽化対策調査業務委託 5,985,000 円
- ③ 基礎資料を基に現況調査を実施し、施設データの精度を高めた管理システム構築の業務を委託した。
 - ・施設台帳作成業務委託 4,089,750 円

(2) 工事関係

- ① 中学校屋内運動場の耐震補強工事を実施した。
 - ・桶川東中学校屋内運動場耐震補強等工事 134,429,400 円
- ② 中学校に防犯カメラの設置を実施した。
 - ・桶川中学校防犯機器設置工事 1,200,000 円
- ③ 中学校の老朽化した施設の解体工事を実施した。
 - ・桶川中学校柔剣道場解体工事 9,975,000 円
- ④ 中学校の老朽化した安全設備の改修工事を実施した。
 - ・桶川西中学校火災報知設備交換工事 1,664,250 円
- ⑤ 中学校のトイレの洋式化工事を実施した。
 - ・桶川東中学校洋式便器設置工事 247,359 円
- ⑥ 桶川東中学校外壁改修工事については、25 年度に繰越（繰越額 110,000,000 円）し、工事を行う。

3. 上記2に対する評価

- (1) 学校施設の耐震化推進計画に基づく屋内運動場の耐震補強工事は全て完了した。
- (2) 老朽化した施設及び設備の整備改修を推進した。

前年度の点検評価報告書の「24 年度以降の取組み」に対する評価

- (1) 老朽化した施設や設備を計画的に改修するため、改修の基本方針に更に具体的な検討を加えた計画策定づくりについては、引き続き実施して行く。
- (2) 中学校の耐震補強工事は全て完了した。
- (3) 施設の修繕については、予算の範囲内で対応した。

4. 年度以降の取組み

- (1) 学校施設全体について中長期的な整備方針を策定し、計画的で一貫性のある改修工事を実施して行く。
- (2) 施設の修繕については、予算の範囲内で積極的に実施していく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育への支援の充実（202）		
基 本 事 業	学校教育への支援の充実（2022）		
事 業 名	小・中学校給食業務	学校支援課	
予 算 額	204,088,000 円	決 算 額	201,670,279 円

1. 事業概要

(1) 桶川市学校給食運営事業

学校給食の実施計画、給食用物資選定及び献立作成等については、教育長が委嘱する桶川市学校給食運営委員会で検討してきた。

(2) 学校給食調理業務

各小・中学校の学校給食は自校方式で行っている。調理業務については、(財)桶川市施設管理公社に委託した。

(3) 学校給食の放射線量測定

学校給食用食材の放射線量の測定を、市内小中学校11校全校において順番に実施した。

(4) 食育の推進

栄養教諭を中心とした食育指導の充実を図る取組を行った。

2. 事業実績

(1) 桶川市学校給食運営事業

①給食費

小学校：月 4,000 円（1食 234 円） 実施回数 年間 187 回

中学校：月 4,550 円（1食 272 円） 実施回数 年間 183 回

②献立作成

桶川市学校給食運営委員会専門部会において、学校栄養職員で構成される献立検討会を毎月3回実施し、地産地消の観点から地元産の食材を利用した献立作成に努めた。

③桶川市学校給食運営委員会

学校給食運営上の課題（諸会議の運営方法、給食物資選定の方法、給食残渣等）について、改善に向けた協議を行い、平成25年度取組計画を策定した。

また、諸会議の運営方法については、学校給食運営委員会規約の改正を行った。

④川田谷小学校の給食室改築工事に伴う代替給食

川田谷小学校長を委員長とするPTA役員や学校栄養職員の代表で構成される代替給食実施委員会を設け、検討を行った。食缶形式の実施に向けて、複数の業者の中からプレゼンテーションや試食会等の協議を経て、年間を通した代替給食への対応力を評価した結果、(株)若菜に代替給食業務を委託することとなった。

(2) 学校給食調理業務

①学校給食調理業務委託（決算金額 192,359,000 円）

給食物資の調達・発注、物資納入業者との契約・指導、献立に基づく調理及び食器等の洗浄、給食室内の衛生管理等について、(財)桶川市施設管理公社に委託した。

②調理作業機器等の更新（決算金額 5,271,945 円）

防水デジタル秤[桶川小] 食器消毒保管機・加湿機能付コンベクションオープン[桶川東小]
配膳台 [桶川中・朝日小] フードプロセッサ―[市内各小中学校]

③給食室備品の点検・保守（決算金額 2,950,515 円）

検査委託、グリスストラップ、設備保守、設備洗浄、消毒等

(3) 学校給食の放射線量測定（決算金額 1,088,819 円）

①提供食の測定（決算金額 485,100 円）

4月から翌年3月まで小・中学校全校において週1回1校ずつローテーションで実施した。

②給食用食材の測定（決算金額 603,719 円）

消費者庁の放射線測定機器第4次配備計画による測定機器の貸与があり、10月から翌年3月まで3品目を週4回1校ずつローテーションで実施した。

(4) 食育の推進

栄養教諭を中心として食育の推進事業を行った。

朝日小・桶川小・桶川西中の3校に栄養教諭を配置し、桶川市全体の食育推進を展開した。

また、学級担任と連携し、食育に関する授業を実施した。

3. 上記2に対する評価

(1) 桶川市学校給食運営委員会の事業について

①給食費

小学校では平成24年9月より給食費の改定を実施した。このことによって、食材の幅が広がり、地元産の食材をより多く使用できるようになった。

②献立作成

地産地消の促進という観点から、できる限りの食材を地元から確保する努力をし、地元産食材の割合を小中平均で昨年度同様の21%程度にすることができた。

③学校給食運営委員会

3月に臨時で学校給食運営委員会を開催し、規約の改正を含めた抜本的な改善に向けた検討ができた。

④川田谷小学校における代替給食

食缶形式の通常の学校給食と同様のものになり、学校や保護者の希望を十分に反映したものになった。

(2) 学校給食調理業務について

①学校給食調理業務委託

桶川市施設管理公社との調整を経て、安心安全な食材にて、安定した給食供給を行うことができた。また、支払業務など事務処理についても、学校事務員と公社との連絡を充実させることにより、円滑な運営ができた。

②調理作業機器等の更新

老朽化した給食設備備品の更新を計画的に行うことができた。

(3) 学校給食の放射線量の測定

計画どおり適切に測定し、測定値をホームページで公表することによって、保護者に対して、安心安全な学校給食の実施を伝えるできた。

(4) 食育の推進

食育の指導については、学級担任と栄養教諭・学校栄養職員とのチーム・ティーチングによる授業を、学校の年間指導計画に位置づけ、計画的に行うことができた。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

- (1) 「今後も安心安全な食材の確保及び地産地消の促進等の充実を継続していく。」としていたが、関係者及び関係機関との連携のもと、安心して安全な食材料の確保及び地産地消の促進と充実を継続し、提供することができた。
- (2) 「学校給食基準栄養価の充足のための小学校における給食費の改定を実施する」としていたが、小学校において24年度に実施することができた。
- (3) 「給食費未納者に対する組織的な対応体制について具現化していく。」としていたが、各校の対応状況を把握し、対応マニュアルや給食申込書を作成した。また、学校の管理職とともに未納者に対する訪宅を実施した。
- (4) 「食を通じた家庭との連携を深める「お弁当の日」などの取組の他校への拡大など、食に関する指導の充実を図る。」としていたが、朝日小で「お弁当の日」の取組が5、6年生を対象として実施された。

4. 25年度以降の取組み

- (1) 学校給食運営員会で、学校給食運営上の諸課題について検討し、改善をしていく。
- (2) 安心安全な食材の確保及び地産地消の促進等の充実を図る。
- (3) 給食費未納者に対する組織的な対応体制について具現化していく。
- (4) 川田谷小学校の代替給食については学校や納入業者の連絡調整を密にしながら、その質の維持と衛生上の管理の徹底を図っていく。
- (5) 食育指導の授業の質の向上を目指す。
- (6) 学校給食調理業務については、引き続き（公財）桶川市施設管理公社に委託する。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	補助員配置事業		学校支援課
予算額	43,826,000円	決算額	43,782,170円
1. 事業概要			
<p>多様化する児童生徒一人一人に対応するため、各補助員を各小・中学校に配置することにより、きめ細やかな指導の充実を図った。</p>			
2. 事業実績			
<p>(1) 教育指導補助員配置事業（21,970,025円）</p> <p>多様化する児童生徒の実態に対応し、一人一人の実態に応じ、充実した教育指導を実施するため、教育指導補助員を各校2名ずつ、全22名を配置した。</p> <p>小学校低中学年ではおもに学習指導補助（国語、算数、体育）、高学年では音楽におけるピアノ伴奏、理科における学習指導補助などを行った。中学校では数学を中心とした学習指導補助の他、保健体育、理科、美術の学習指導補助を行った。</p>			
<p>(2) 特別支援指導補助員配置事業（20,846,585円）</p> <p>特別支援学級及び通常学級において、教育的支援が必要な児童生徒への指導を補助するために、特別支援指導補助員を21名配置し、主に技能教科での補助的支援や個別の声かけ、日常生活への適応について支援を行った。</p> <p>小学校 16名：桶川小5名、加納小1名、桶川西小4名、桶川東小2名、日出谷小2名、朝日小2名</p> <p>中学校 5名：桶川中1名、桶川東中2名、桶川西中1名、加納中1名</p>			
<p>(3) 日本語指導補助員配置事業（965,560円）</p> <p>日本語の指導を要する児童生徒が在籍する小・中学校4校（桶川小学校、桶川東小学校、桶川中学校、加納中学校）に、学校からの要請に基づき4名の補助員を配置した。</p> <p>日本語指導員は、通常の学級に在籍する外国籍の児童生徒に対する支援として、日本語指導及び教育指導の補助にあたった。</p> <p>小学校2校：各1名 スペイン語</p> <p>中学校2校：各1名 スペイン語・タガログ語</p>			
3. 上記2に対する評価			
<p>(1) 教育指導補助員配置事業</p> <p>担任と連携し、学習内容の理解に時間を要する児童生徒への支援を行うことにより、一人一人の理解の程度に応じたきめ細かい指導を行うことができた。「読み」「書き」「計算」など基本的学力の定着に効果が表れ、学習意欲の向上や落ち着いた学習態度の醸成にも結びついた。</p> <p>なお、さらに多くの支援を必要とする児童生徒もいるが、配置人数などの事情から必ずしも対応しきれていない状況もあった。また、指導補助員を対象とした研修会において、研修内容がややマンネリ化してきていることや、参加者が限定されてきていること等の課題があった。</p>			
<p>(2) 特別支援指導補助員配置事業</p> <p>教育的支援を要する児童生徒にきめ細かい適切な支援を行うことができた。また、特別支援教育の視点にたった学校教育を進めることができた。</p>			

(3) 日本語指導補助員配置事業

日本語指導補助員が授業中の学習支援や個別の学習指導を行ったりすることで、支援を受けた外国人児童生徒は、ひらがなやカタカナの習得ができ、日本語による学習に慣れることができてきた。

その結果、日常生活でのコミュニケーションが深まり、安心した学校生活を送ることができるようになった。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

(1) 教育指導補助員配置事業

「児童生徒の多様化に合わせ、今後、教育指導補助員の勤務条件の整備や研修の強化、増員を図っていく。」としていたが、各校2名ずつの配置であり、児童生徒の実態によっては必ずしも十分ではないといえる。増員については、財政的な面から改善を図ることができなかったが、今後も検討を要する。

(2) 特別支援指導補助員配置事業

「特別支援学級はもとより、通常の学級における児童生徒の多様化に合わせ、特別支援指導補助員の増員、人材確保とともに、資質の向上と見届けを図っていく。」としていたが、増員については、財政的な面から改善を図ることができなかった。各小中学校や、保護者からも増員の要望が強く出されているため、今後も検討を要する。毎年、人材の確保に苦慮しており、賃金や勤務条件など検討を要する。また、補助員研修会等で資質の向上を図ることができた。

(3) 日本語指導補助員配置事業

「外国人児童生徒への支援に加え、帰国児童生徒への対応についても検討していく。」としていたが、対象となる児童生徒の増加は無かった。そのため、センター方式等、対象者増加への対応について検討は行わなかった。

※センター方式.. 1名の日本語指導員が複数校の児童生徒を対象として指導すること

4. 25年度以降の取組み

(1) 教育指導補助員配置事業

多様化する児童生徒の実態に応じていくため、教育指導補助員の勤務条件の整備や学校規模に応じた補助員の増員を図っていく。さらに研修内容を充実させることで補助員の質も向上させていく。

(2) 特別支援指導補助員配置事業

教育的支援を必要とする児童生徒数が増加傾向の中で、一人一人に応じた教育的支援が行えるよう特別支援指導補助員の増員、人材確保を行っていく。

(3) 日本語指導補助員配置事業

外国人児童生徒の実態を把握することに時間を要することや指導の継続性という観点から、同じ指導補助員を複数年配置することを計画していく。さらに、外国人への支援に加え、必要に応じて、帰国子女への支援体制も整えていく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	学校図書館教育補助員配置事業		学校支援課
予算額	5,280,000 円	決算額	5,280,000 円
1. 事業概要			
小・中学校に学校図書館教育補助員を配置し、図書館教育、読書指導の充実を図った。			
2. 事業実績			
小中学校に各1名ずつ、学校図書館教育補助員を配置し、以下のことを行った。			
配置状況：年間120日（原則として週3日、1日5時間勤務）			
(1) 図書指導			
各学級担任との連携により、総合的な学習の時間や社会科における調べ学習の補助を行った。			
また、地域の図書ボランティアの方々と連携して、朝自習や昼休みを活用して、読み聞かせ活動を行った。			
(2) 蔵書の修復や整理、貸出し等の補助			
(3) 図書室の環境の整備・充実			
司書教諭と協力して、図書の効果的な配置や季節感のある掲示や本の紹介を行い、図書室の環境の整備に取り組むとともに、公立図書館から図書の貸出を受け、これを校内の教育活動に提供した。			
3. 上記2に対する評価			
(1) 図書指導			
図書資料を活用した多様な学習活動の展開が可能となり、各教科の調べ学習や探究的学習が円滑に行われた。また、朝の読書活動の取組みなどにより、児童生徒に読書の習慣が定着した。			
(2) 蔵書の修復や整理、貸出し等の補助			
図書ボランティアの方々と連携して蔵書の修復や整理等を計画的に行うことができた。			
(3) 図書室の環境の整備・充実			
蔵書の数を実践させながら、館内の環境を整えることによって、児童生徒が行きたくなる図書室を実現することができた。また、公立図書館と連携することによって、より多くの図書資料を提供することが可能となり、校内の学習情報センターとしての役割を向上させることができた。			
前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価			
「図書室の機能充実のため、学校図書館教育の指導者を招聘して、学校図書館教育補助員の研修の充実を図っていく。」としていたが、補助員及び図書室の機能充実のため、桶川市立図書館長を指導者に招聘し、学校図書館教育補助員の研修を実施することができた。			
4. 25年度以降の取組み			
図書室の機能充実及び図書館補助員のさらなる質の向上のため、学校図書館教育補助員の研修内容の充実を図っていく。			

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	英語指導助手配置事業	学校支援課	
予算額	20,973,000円	決算額	20,768,120円
1. 事業概要			
小・中学校に英語指導助手（5名）を配置し、国際理解教育や外国語教育の推進を図った。			
2. 事業実績			
(1) 小学校の指導助手（AET）について			
英語指導助手を全小学校に配置し、高学年の外国語活動の指導を行い、さらには給食や清掃活動などを通して児童との交流を行った。			
また、中学年の総合的な学習の時間の指導や、教師に対して研修の指導を行った。			
〔各小学校配置日数〕			
A指導助手：桶川小学校 116日 日出谷小学校 79日			
B指導助手：加納小学校 60日 川田谷小学校 59日 朝日小学校 80日			
C指導助手：桶川西小学校 99日 桶川東小学校 100日			
(2) 中学校の指導助手（JET）について			
英語指導助手を全中学校に配置し、英語指導補助を中心に日常の生徒との交流を行い、併せて英語教材作成の補助及び英語能力コンテストの指導等を実施した。			
〔各中学校配置日数〕			
D指導助手 桶川東中学校 88日 桶川西中学校 89日			
E指導助手 桶川中学校 134日 加納中学校 56日			
※AET・・・Assistant English Teacher			
JET・・・The Japan Exchange and Teaching Programme			
3. 上記2に対する評価			
(1) 小学校の指導助手について			
外国語活動の推進や総合的な学習の時間で行う「国際理解教育」を柱とする学習活動の充実を図ることができた。			
とくに、ゲーム、歌、チャンツなどの活動を通して、英語に慣れ親しむことができた。			
(2) 中学校の指導助手について			
英語の学習活動においてネイティブスピーカーの先生と接することで、外国人と違和感なく接することができるようになった。具体的には、生徒がより意欲的に学習に取り組める英語教材の効果や日常活動における交流の促進によって、恥ずかしがったり、誤りを恐れたりせず、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度が育ってきている。			
また、英語能力コンテストの指導等により、生徒のスピーチ力が向上している。			

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

(1) 小学校の指導助手について

「さらに外国語の活動を一層推進するために資質の高い英語指導助手を新規に雇用したり、継続的に雇用したりできるようにする。」としていたが、改善を図ることができなかった。

(2) 中学校の指導助手について

教育委員会で資質の高い指導助手が選出できないことから、業務委託契約へ変更する。

4. 25年度以降の取組み

さらに外国語の活動を一層推進するために、資質の高い英語指導助手を雇用できるようにする。

平成25年度2学期より中学校における英語指導助手についても業務委託契約に変更する。契約にあたっては、英語指導助手の資質、緊急の場合のサポート体制の充実に配慮する。

とくに資質の見極めを重視し、面接にあたっては模擬授業を実施し、中学校での英語の授業についての知識や経験、生徒のコミュニケーション能力育成について評価する。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	小学校理科支援員配置事業		学校支援課
予算額	210,000 円	決算額	210,000 円

1. 事業概要

理科教育の充実を図るため、川田谷小学校と加納小学校に理科支援員を配置した。

2. 事業実績

川田谷小学校と加納小学校に理科支援員を1名ずつ配置した。9月から12月の間において、週2、3日、午前中2、3時間単位の授業の実験や観察への補助を行った。

[加納小学校における実績]

月 日	事 業 内 容	月 日	事 業 内 容
9月4日(火)	担任との打合せ	11月13日(火)	5学年2クラスの支援、県学校訪問
9月6日(木)	6学年2クラスの支援、環境整備	11月15日(木)	6学年2クラス)の支援、環境整備
9月10日(月)	6学年2クラス、5学年1クラスの支援	11月19日(月)	6学年2クラス、5学年1クラス)の支援
9月11日(火)	5学年2クラスの支援、環境整備	11月20日(火)	5学年2クラスの支援、環境整備
9月13日(木)	6学年1クラスの支援、環境整備	11月22日(木)	6学年2クラスの支援、環境整備
9月18日(火)	5学年2クラスの支援、環境整備	11月26日(月)	6学年2クラス、5学年1クラスの支援
10月11日(木)	6学年2クラスの支援、環境整備	11月27日(火)	5学年2クラスの支援、環境整備
10月15日(月)	6学年2クラス、5学年1クラスの支援	11月29日(木)	6学年2クラスの支援、環境整備
10月18日(木)	6学年2クラスの支援、環境整備	12月3日(月)	6学年2クラス、5学年1クラスの支援
10月22日(月)	6学年2クラス、5学年1クラスの支援	12月4日(火)	5学年2クラスの支援、環境整備
10月23日(火)	5学年2クラスの支援、環境整備	12月6日(木)	6学年2クラスの支援、環境整備
10月24日(水)	第3回小学校理科支援員等配置授業に係る研修会への参加	12月10日(月)	6学年2クラス、5学年1クラスの支援
10月29日(月)	6学年2クラス、5学年1クラスの支援	12月11日(火)	5学年2クラスの支援、環境整備
11月5日(月)	6学年2クラス、5学年1クラスの支援	※勤務時間は、いずれの日も4時間である。	
11月8日(木)	6学年2クラス、5学年1クラスの支援		

3. 上記2に対する評価

理科支援員が配置されたことで、準備や片付けなどの負担が軽減され、理科室で多くの実験を行うことができた。児童にとっては身近に支援員がいることで、安心して実験ができるようになった。

また、理科室の掲示の整備を行った結果、実験の取組方などルールを徹底することができるようになった。

課題としては、支援員との打ち合わせ時間の確保の難しさがあげられ、対象を5、6学年だけではなく、3、4学年に拡大することによってさらに円滑な実験環境が整うとの希望もあった。

4. 25年度以降の取組み

県の事業が終了したので平成25年度は配置できなかった。

今後、学校からの要望等を加味して、市の予算措置から配置を検討していきたい。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	教育相談事業		学校支援課
予算額	12,063,000円	決算額	12,031,433円

1. 事業概要

- (1) さわやか相談員を各中学校に配置した。
- (2) 教育相談所で相談員による教育相談を行い、適応指導教室「けやき教室」を開設した。
- (3) スクールカウンセラーを3週または2週に1回、各中学校に配置した。

2. 事業実績

- (1) さわやか相談室（8,001,600円）
来室相談数：4,135件 電話相談数：1,223件
- (2) 教育相談所（1,552,483円）・適応指導教室（2,477,350円）
相談数：38件
けやき教室通級人数：小学生 1人、中学生 9人、合計 10人
- (3) スクールカウンセラー
小学校 13件 中学校 102件

〔関連事項：市内小・中学校でのいじめの認知件数及び不登校者数〕

いじめの認知件数	小学校 28件	中学校 27件
不登校者数	小学校 23人	中学校 57人

3. 上記2に対する評価

- (1) さわやか相談室
児童生徒への直接的な相談や支援、学級担任及び養護教諭等との連携による指導や支援を行った。学校・家庭・地域社会との連携による支援を行うことにより、いじめへの対応、不登校児童生徒の抑止に効果をあげた。
- (2) 教育相談所・適応指導教室
不登校生徒に対し、学校への復帰のための支援を行うことができた。
- (3) スクールカウンセラー
発達障害のある児童生徒の増加に対応して、児童生徒の検査等を行い、適切な指導を保護者と教員に行い、一定の効果を上げた。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「校内の組織体制の充実及び年々価値観が多様化する保護者との連携、さらには、さわやか相談員としての臨床心理に関する高度な専門的な知識や教職経験等の学校現場の経験を有する人材の確保。」としていたが、臨床心理に関する専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラーの指導助言のもと、価値観が多様化する保護者との教育相談を効果的に進めることができた。
また、校内の組織的な教育相談体制の充実の推進に努めた。

4. 25年度以降の取組み

校内の組織的な教育相談体制の充実を図りながら、価値観が多様化する保護者への対応や小学校との連携をさらに深める。

教育センターでの相談活動、適応指導を充実させ、学校との連携により不登校児童生徒に対する指導の充実を図るために、臨床心理に関する知識や経験をもつカウンセラーを増員する。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	中学生社会体験チャレンジ事業	学校支援課	
予算額	260,000円	決算額	260,000円

1. 事業概要

生き方指導としての進路指導・キャリア教育の充実を図るため、全中学校で生徒の職場体験を行った。

この活動を通じて望ましい職業観や公平な社会性への理解を深め、夢と希望を持って実現に向かって努力する自立心等を養うことを目指した。

2. 事業実績

(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の開催

平成24年6月及び平成25年2月に、桶川市商工会、青年会議所、ライオンズクラブ、PTA会長の参加を得て、各中学校長及び事業担当者とともに、職場体験活動の目的を説明し、依頼する事業所の確認や各校からの情報交換を行った。

(2) 各校における実績

体験期間：3日間

参加生徒数：621人 協力事業所数：延べ174事業所

学校名	実施学年	参加人数	事業所数	補助金額(円)
桶川中	第1学年	173	52	72,000
桶川東中	第2学年	159	39	69,000
桶川西中	第2学年	195	55	80,000
加納中	第2学年	94	28	39,000

3. 上記2に対する評価

(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の開催

各校での情報が得られ、より円滑な事業の運営ができた。また、桶川市商工会、青年会議所やPTA会長の参加により事業所への依頼を容易にすることができた。

(2) 各校の取組

生徒は職場体験を通じて、「働くことの意味」や「働くことの喜び」、そして「社会に貢献する意義」を学ぶことができた。参加した生徒の保護者からは、親への感謝の気持ちや社会への関心も高まり、自立心の育成につながったとの意見が寄せられた。

また、学校からは、新しい協力事業所の発掘がさらに必要との声があった。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

これまで「中学生をボランティアで3日間預かっていただける事業所の確保。また、対応業種によっては、学校が予定する平日連続3日間に必ずしも営業している訳ではないなど、条件面でも学校のニーズに応じられる事業所の確保を継続的に行う。」としていたが、社会全体の雇用状況等の事情もあり、平日連続3日間の実施など、学校の希望にに応じられる事業所の確保が困難な状況は変わらなかった。

4. 25年度以降の取組

中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の更なる活性化を図るなど、各校の取組の情報交換等を通し、新しい事業所の発掘をおこなっていく。

各学校の実績を共有することにより、学校の希望に適う協力事業所の確保を行う。
平成25年度についても、特に桶川市商工会、青年会議所に協力を依頼し、各団体の広報を通してチャレンジ事業のPRを行っていく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	進路意識啓発事業（ふれあい講演会）	学校支援課	
予算額	40,000 円	決算額	40,000 円

1. 事業概要

進路指導の一環として、生徒や保護者の進路意識を啓発するために「ふれあい講演会」を実施し、それぞれの道に長けた職業人の講演を聴く機会を提供した。

2. 事業実績

この事業は、県の補助金によって実施されている事業である。
各校の実施内容は以下のとおりである。

学 校 名	講師の職業	参加人数	実施日	内 容
桶 川 中	作曲家	652 人	10 月 26 日	作曲家への道
桶川東中	和菓子店店長	531 人	7 月 4 日	和菓子屋の経営
桶川西中	漫画家	563 人	10 月 24 日	漫画家への道
加 納 中	パイロット	380 人	10 月 27 日	操縦士とその夢

3. 上記2に対する評価

人生の先輩としての体験談を通して、学校生活の中では知ることのできない職業人としての在り方や考え方にふれることにより、将来の進路や生き方を考えるきっかけとなった。

また、厳しい社会生活の現実を理解することによって、学ぶことの大切さを知り、現在の学校生活をより充実したものにしていこうとする意欲が生徒個々に醸成された。

さらに、保護者も参加したことで、生徒と話題の共有をすることができた。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「講師の確保については、引き続き人材バンク化の推進や各校の講師をローテーションして依頼するなど、学校や生徒の実態に即した選定が図られるよう支援していく。」としていたが、講師の選定等、各学校において本事業の趣旨を踏まえた実施が図ることができた。

4. 25年度以降の取組み

講師の選定について、過去5年間の実績をもとに各校の講演会講師を一覧表にして配布し、より円滑な運営ができるよう支援をしていく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	ことばの教室事業	学校支援課	
予算額	1,590,000 円	決算額	1,590,000 円
1. 事業概要			
ことばの発達に不安のある保護者・児童生徒に対し、専門的な指導を行った。			
2. 事業実績			
(1) 児童又は生徒への言語指導に関すること			
「ことばやきこえ」の発達を支援するため、桶川市ことばの教室を設置し、言語聴覚士によることばに関する専門的な指導を行った。ことばを増やすための指導や正しい発音へと導く指導をはじめ、一人一人の状態に応じた適切な個別指導を行った。			
(2) 保護者の来所相談に関すること			
保護者が言語指導を受ける児童生徒を理解するために、相談に応じるなどの支援を行った。			
(3) 言語指導に係る学校との連携に関すること			
対象となる児童生徒の在籍する小中学校における特別支援教育コーディネーター及び学級担任との連絡協議会を夏季休業中に行った。			
<ul style="list-style-type: none"> ・開設日数：75 日 ・開設時間：午後 1 時～5 時（4 時間） ・通級児童数：43 名（小学生 41 名 中学生 2 名） ・終了児童数：4 名 			
3. 上記 2 に対する評価			
(1) 児童又は生徒への言語指導に関すること			
言語聴覚士によることばに関する専門的な指導を受けることで、ことばを増やしたり、正しい発音ができるようになったりした。			
(2) 保護者の来所相談に関すること			
言語聴覚士という専門的立場から助言を受けることで、児童理解や家庭での訓練法等、保護者への支援を行うことができた。このことにより、自己の能力や特性を発揮し、日常生活や学習に主体的に取り組む態度の育成に資することができた。			
(3) 言語指導に係る学校との連携に関すること			
連絡協議会の開催により、在籍校でのことばの支援及び指導法について、特別支援教育コーディネーターと連絡協議会を実施することで、共通理解を図ることができた。			
前年度の点検評価報告書の「24 年度以降の取組み」に対する評価			
「ことばの教室への入級前の相談体制とともに、「ことばの教室」「在籍学級」「家庭」間の一貫性のある指導を継続していく。」としていたが、ことばの教室での言語聴覚士と通級児童の在籍校特別支援教育コーディネーター及び学級担任との連絡会を実施することで指導連携を図ることができた。			
4. 25 年度以降の取組み			
ことばの教室への相談、入級者の増加に伴い、個人に対する十分な指導時間の確保のための開設日数、開設時間の検討を行う。			

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業	学校支援課	
予算額	50,000 円	決算額	50,000 円
1. 事業概要			
通常の学級に在籍する発達障害や情緒障害がある児童に対し、必要な教育支援を行った。			
2. 事業実績			
桶川市発達障害・情緒障害通級指導教室「大空」において、学校生活や社会生活への適応に支援が必要とされる児童を対象として、担当教諭による一人一人の状態に応じた個別指導及び少人数指導を行った。			
〔通級児童数〕			
平成 20 年度 11 名（9 月開設）			
平成 21 年度 11 名			
平成 22 年度 14 名			
平成 23 年度 13 名			
平成 24 年度 15 名			
3. 上記 2 に対する評価			
個別指導及び少人数指導を行うことで、通常学級の授業へ参加する力や学級に適応する力を身につけてきている。その結果、コミュニケーション能力の向上、苦手意識をもつ学習指導の改善など、児童の健やかな成長への一助となった。			
また、在籍校からの報告として、保護者との連携が確保され、通級児童への指導において保護者と担任及び通級担当との共通理解を得ることができ、このことが児童にとって良い変化をもたらしたとの報告があった。			
前年度の点検評価報告書の「24 年度以降の取組み」に対する評価			
「通級する児童の増加に伴い、通級指導教室担当教諭と通級児童の在籍校との指導連携の在り方について継続的に検討していく。」としていたが、通級指導教室も開設 5 年目となり、学校と保護者への周知も進み、入級を希望する児童が増加している。また、校内の教育相談体制及び就学支援委員会等の充実により、適正かつ円滑な入級が図られた。			
4. 25 年度以降の取組み			
通級希望児童の増加が見込まれる中で、今後の通級指導教室のあり方について検討していく。			
特に、通級指導教室担当教諭と通級児童の在籍校との指導における連携については、継続的に検討していく。			
また、加納小学校における通級指導教室については、平成 25 年 5 月より指導が開始され、9 月には施設設備の改修が完了となる。今後、桶川西小学校教室と連携を確保しながら、円滑な運営を図っていく。			

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校応援団推進事業		学校支援課
予算額	776,000円	決算額	776,000円
1. 事業概要			
地域や家庭との連携を図り、学校運営を支援する体制づくりを推進した。			
2. 事業実績			
小・中学校全校に学校応援団が設置され、各学校の計画に応じて、以下の学校支援活動が行われた。その活動費として、各学校にそれぞれ51,000円を交付した。			
(1) 学校支援活動の内容			
○小学校7校（ボランティア数：730名）			
①安心安全への支援 登下校の見守りやあいさつ運動			
②学習活動への支援 ゲストティーチャーや本の読み聞かせ等の学習活動			
③環境整備への支援 学校の環境整備のためのペンキ塗りや花壇・植木の手入れ等			
○中学校4校（ボランティア数：230名）			
①安心安全への支援 登下校の見守りやあいさつ運動			
②環境整備への支援 学校の環境整備のためのペンキ塗りや花壇・植木の手入れ等			
(2) 学校応援団事務局の活動			
①学校応援団連絡協議会の開催			
②学校応援団実践事例集の作成			
3. 上記2に対する評価			
(1) 学校支援活動の内容			
小・中学校全校に学校応援団が設置され、各学校の実態に合わせた活動を行うことができた。多くの保護者や地域の方が来校することに相まって、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒を育てていこうとする意識が高まってきた。			
(2) 学校応援団事務局の活動			
学校応援団連絡協議会において、学校応援団コーディネーター研修会の報告会を行い、コーディネーターの役割について協議することができた。また、実践事例集を作成し、市内各校における学校応援団の取組の周知と理解を図ることができた。			
前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価			
「中学校における学校応援団の設置を行い、全校で学校応援団の活動が実施できるよう推進していく。」としていたが、中学校においても全校学校応援団が設置され、全校で学校応援団の趣旨を踏まえた活動が展開された。			
4. 25年度以降の取組み			
各学校の実態、特色に合わせた、創意工夫のある学校応援団の活動が計画的・継続的に実施できるよう、学校の要望を取り入れながら支援していく。			

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	教職員の資質・能力の向上推進事業	学校支援課	
予算額	2,782,000円	決算額	2,766,000円

1. 事業概要

教職員の資質・能力の向上に向け、研修会の開催、学校訪問時の学習指導や学校課題研究への支援などを行った。

2. 事業実績

(1) 教育委員会主催研修会

項目	実施時期	研修会のテーマ	参加対象者
桶川市教育講演会	5月	講演会 「学校に期待するもの」	全教職員
道徳教育研修会	8月	道徳教育の充実に係る効果的な方策	道徳主任
人権教育担当者研修会	8月	人権課題の正しい理解と人権意識の高揚	人権教育主任
管理職等人権教育研修会	1月	人権教育と青少年健全育成	教頭・教務主任
学校カウンセリング中級研修会	8月	生徒指導・教育相談推進者として必要な知識・技能	希望教員
特別支援教育研修会	8月	特別な教育的配慮を要する児童生徒への指導力の向上	特別支援教育コーディネーター等
小学校英語活動研修	8月	英語活動の充実を図るための指導方法	小学校全教員
初任者研修	6.7.2月	桶川市の教員として授業実践を通しての資質の向上	初任者教員
3年経験者研修	6.1月	教員3年目の教育実践を基礎に、教員としての更なる資質の向上	3年経験者教員
給食指導法研修会	8月	食育の充実に係る指導	栄養教諭等
保健指導研修会	8月	心身の健やかな発達を促進するための指導	養護教諭等
体力向上研修会	7.11月	体力作りのための活動やその方法	体育主任等
夏季学校経営・運営研修会	8月	学校経営・運営に係る諸問題について協議し、今後の学校経営・運営	校長・教頭

(2) 学校訪問

① 定例訪問

南部教育事務所の協力を得て、小・中学校全校を各2回訪問し、教育課程、学習指導、学校管理、その他学校運営に係る専門的事項について指導助言を行った。

② 各校の自主研修に伴う依頼訪問

各校の自主研修に伴い、各校2回から5回、指導主事が訪問したり、講師を依頼したりして、自主研修に対する指導助言を行った。

(3) 学校課題研究

小・中学校全校に交付金を交付し、それぞれの学校の研究を支援した。

交付金額：研究1年目 140,000円 2年目 230,000円 3年目（本発表）320,000円

また、本発表校には、研究発表会の開催に係る支援及び全体会での指導講評を行った。

学校名	研究領域	研修主題等	備考
桶川小	特別支援教育	ともに認め合い生き生きと活動する児童の育成	11月7日本発表
加納小	算数	「わかった」「できた」を味わうことのできる授業をめざして	研究1年目
川田谷小	国語	「書くこと」の力を育てる学習指導	12月7日本発表
桶川西小	国語	よりよい自分を目指し、ともに生きる児童の育成	研究1年目
桶川東小	国語	伝え合う力を高める学習指導の工夫と改善	11月8日本発表
日出谷小	国語	自分の思いや考えを豊かな言葉で表現できる児童の育成	研究2年目
朝日小	算数	どの子にもわかる・できるを実感させる学習指導	研究2年目
桶川中	学習指導	一人一人の力を伸ばす学習指導	10月12日本発表
桶川東中	特別活動	生徒一人一人が生き生きと活動できる学校づくりの充実	11月15日本発表
桶川西中	学習指導	知識・技能の活用を図り、確かな学力を育む指導方法の研究	研究1年目
加納中	心の教育	豊かな心をもち意欲的に活動できる生徒の育成	研究2年目

3. 上記2に対する評価

(1) 教育委員会主催研修会

各校の教職員が、各研修会を通して、今後の教育に求められる専門的知識や最新の指導技術を学ぶことにより、教職員の資質向上に資することができた。

(2) 学校訪問

学校訪問では、南部教育事務所からの支援を受け、各学校の課題を踏まえて指導助言を行うことにより、各学校の教育活動の改善に資することができた。特に、前年度に指摘された課題に対し、各学校では積極的に改善に向けて取り組んでいる姿が見られた。

(3) 学校課題研究

本発表を迎えた学校の取組を市内外に発信したことによって、桶川市全体の教育活動の充実に寄与することができた。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「教職員の資質・能力の向上には、教員免許更新講習も含めた研修が重要である。市教委主催研修など、内容について精査するとともに、今後も教職員のライフステージに応じた研修等、時宜を得た研修を実施していく。」としていたが、市教委主催研修及び学校訪問や委嘱研究に係る校内研修会等の機会をとらえ、教職員の資質向上を視点とした取組を図った。

また、初任者研修や平成22年度から実施している3年経験者研修を中心に、今後増加が見込まれる若手教員の資質向上を図っていく。

4. 25年度以降の取組み

児童生徒の「生きる力」を育むためには、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育の実践が不可欠である。

市教委主催の研修などのテーマや研修内容について精査するとともに、今後も教職員の指導力の向上に向けた研修を実施していく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	就学援助事業		学務課・学校支援課
予算額	34,928,000円（学務課） 696,000円（学校支援課）	決算額	34,022,251円（学務課） 195,492円（学校支援課）

1. 事業概要

児童・生徒の義務教育に対しての機会均等を図るため、経済的に困難である保護者に対し、就学費用の援助を行う。また、特別支援教育の普及・奨励と入級児童・生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、特別支援教育就学奨励費を支援した。〔学務課〕

要保護、準要保護の認定がなされた世帯の児童生徒に対し、医療費の援助を行った。

〔学校支援課〕

2. 事業実績

〔学務課〕

平成24年度就学援助費執行状況

- ・小学校受給者数：要保護6人（修学旅行費等のみ） 準要保護248人 特別支援教育33人
 学用品費（要保護、準要保護）5,195,562円
 学校給食費（準要保護）9,621,389円
 特別支援教育就学奨励費 1,584,126円
- ・中学校受給者数：要保護4人（修学旅行費等のみ） 準要保護166人 特別支援教育21人
 学用品費（要保護、準要保護）8,092,723円
 学校給食費（準要保護）7,624,028円
 特別支援教育就学奨励費 1,904,423円

※準要保護者数の推移

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
小学校	受給者数(人)	243	259	239	237	248
	全児童数に対する割合(%)	5.8	6.2	5.9	5.8	6.2
中学校	受給者数(人)	150	141	146	152	166
	全生徒数に対する割合(%)	7.3	6.9	7.1	7.4	8.2
合計	受給者数(人)	393	400	385	389	414
	全児童生徒数に対する割合(%)	6.3	6.4	6.3	6.4	6.9

〔学校支援課〕

医療費補助

要保護・準要保護の認定がされた保護者に対し、学校保健安全法で定められた疾病（う歯・結膜炎・中耳炎など）の医療費の援助を行った。平成24年度執行状況はう歯のみ。

〔平成24年度就学援助執行状況〕

- ・小学校執行件数：要保護 10件・6人 準要保護 5件・2人 支給医療費額 114,646円
- ・中学校執行件数：要保護 3件・1人 準要保護 16件・6人 支給医療費額 80,846円

3. 上記2に対する評価

[学務課]

- (1) 被災地から避難された方について認定・援助及び社会的経済状況の変化による経済的に生活が困難な保護者の出現に伴い、認定件数が23年度より増加した。
- (2) 認定にあたっては、現行の基準に基づき家庭状況等を精査し、適正に支給することができた。
- (3) 事務処理を学校に依頼する必要があるため、学校事務担当者の事務処理上の問題が生じないよう取扱いについて周知徹底を図った。

[学校支援課]

- (1) 例年と同様の予算を確保した。医療受診数については今後の予測が不能であるため、今後も十分な予算の確保が必要である。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

[学務課]

- (1) 「学齢児童保護者への案内配布と併せ、市報、市HP等による事業広報と申請促進を図っていく。」としていたが、報告書のとおり申請促進が図れた。
- (2) 「認定にあたっては、家庭の状況や学校の所見等も考慮し、精査する。」としていたが、認定にあたっては、所得だけではなく、家庭の状況や学校長・担任の所見等も考慮し、精査した。

[学校支援課]

- (1) 「申請件数は減少しているが、予測不能なため、今後も十分な予算の確保を行っていく。」としていたが、24年度も必要な予算が確保できた。

[学務課・学校支援課]

- (1) 「学校事務担当者の事務処理上の問題が生じないように、取扱いについて周知徹底を図るとともに、迅速かつ適正な事務処理を継続していく。」としていたが、県からの通知の周知徹底や学校訪問、及び、各小・中学校との密な連携をとおして、適正な事務処理を行うことができた。
また、医療券を発行する際には、学校、医療機関宛に取り扱いに関する文書を毎回送付し、周知徹底を図った。

4. 25年度以降の取組み

[学務課]

- (1) 学齢児童保護者への案内配布と併せ、市報、市HP等による事業広報を行い、申請促進を図る。
- (2) 認定にあたっては、家庭の状況や学校の所見等も含め認定する。
- (3) 学校事務担当者の事務処理上の取扱いについて問題が生じないように、周知徹底を図るとともに、迅速かつ適正な事務処理を継続していく。

[学務課・学校支援課]

- (1) 学用品費等の申請件数は、ここ5年間は横這いから増加傾向であり、医療費の申請件数は減少している。しかしながら、要保護、準要保護の認定者数が増加傾向にあるため、今後の社会状況の変化に柔軟に対応するため、予算の確保を行っていく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基 本 事 業	学校教育への支援の充実（2022）		
事 業 名	教職員の管理業務		学務課
予 算 額	1,516,000 円	決 算 額	689,780 円

1. 事業概要

桶川市立小・中学校教職員の服務監督と健康管理を行った。
病気休暇取得の教職員に代わる市費対応に係る臨時的任用教職員を配置した。

2. 事業実績

- (1) 校長・教頭に対して定例校長・教頭会議等を活用し、教職員の管理・監督、職場環境の整備について、継続的に指導を行った。
- (2) 教職員の事故防止のために、教育長通知による教職員への周知徹底及び学校訪問を実施した。また、教職員倫理確立委員会の活性化に向け、定例校長・教頭会議で指導や情報提供を行った。
- (3) 平成 24 年度臨時的任用教職員の配置状況（7,580 円／日）
 - ・ 小学校（欠員補充 9 名） 386,580 円 （延べ 51 日間）
 - ・ 中学校（病休代替 3 名、欠員補充 1 名） 303,200 円 （延べ 40 日間）
- (4) メンタルヘルスに係る研修会に教職員を参加させ、健康の保持・増進を支援した。また、学校医による面接を行い、心の健康を含め、職員の健康の保持増進に係る指導を行った。

3. 上記 2 に対する評価

- (1) 校務用パソコンの導入に伴い、各学校では、使用規程を整備するとともに、情報管理に関するセキュリティポリシーを策定し、適切な運用と管理の徹底を行うことができた。
- (2) 教職員倫理確立委員会については、開催回数を増やしたり、時間を短くして毎週行ったりするなどの内容の工夫が図られ、教職員事故防止につながった。特に体罰問題については、教職員の意識改革が各校でなされた成果として報告件数は 0 であった。
- (3) 平成 24 年度は小学校、中学校とも病休者や欠員補充が前年度よりも減少し、病休代替 3 名、欠員補充 10 名であった。13 名の臨時的任用教職員を市費で円滑に配置することができ、学校運営に支障をきたすことは無かった。
- (4) メンタルヘルス研修会への参加や健康診断後の学校医との面談を行うことにより、教職員の健康に対する助言と意識啓発をすることができた。

前年度の点検評価報告書の「24 年度以降の取組み」に対する評価

- (1) 「教職員の管理・監督について、校長への継続的な指導と併せ、教職員倫理確立委員会の活動を実効性のあるものとするために、教職員の自立的・主体的な活動を重点に活動計画の更なる充実・改善を図る。」としていたが、教職員の管理・監督、職場環境の整備について、継続的に校長へ指導を行うとともに、教職員倫理確立委員会の活動について、定例校長・教頭会議における具体的な指導や他市の活動内容等の情報提供をすることができた。

(2)「教職員事故の防止に向けて、定例校長会議等で継続的に指導を行うとともに、情報管理に関するセキュリティ対応について、学校訪問・校長会議等を機会として管理状況の継続的な見届けを図っていく。」としていたが、教育長通知の周知徹底と併せ、教職員が主体的に事故防止に努めるよう、定例校長・教頭会議等での継続的な指導を行った。また、校務用パソコンの活用に伴い、使用規程を整備するとともに、情報管理に関するセキュリティポリシーを策定し、各学校における適切な運用と管理の徹底を推進できた。

(3)「教職員の健康管理については、勤務時間の適正な把握と併せ、医師による面接指導を実施する体制の整備について検討していく。」としていたが、心の健康を含め、職員の健康の保持増進に係る取組を実施できた。

4. 25年度以降の取組み

(1) 教職員の管理・監督については、校長への継続的な指導を行うとともに、教職員倫理確立委員会の活動をより実効性のあるものとするために、工夫・改善に向け情報提供を行っていく。

(2) 教職員事故の防止のために、学校訪問や定例校長会議等で継続的に指導を行う。特に体罰問題については指導の強化を行い、児童・生徒の人権が守られるよう徹底を図る。

(3) 学校運営に支障をきたさないようにするため、病休等の代替教員を適正に確保するとともに、市費で迅速に対応できるようにしていく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（2022）		
基 本 事 業	学校教育への支援の充実（2022）		
事 業 名	教職員の資質・能力の向上推進事業	学務課	
予 算 額	50,000 円	決 算 額	50,000 円
1. 事業概要			
教職員の資質・能力の向上を図るため、「人事評価」や各種研修会を実施した。			
2. 事業実績			
<p>(1) 教職員人事評価の実施</p> <p>実績（職員が設定した目標の達成状況）及び行動プロセス（職務遂行の過程で発揮された能力及び執務姿勢）評価からなる校長による教職員に関する人事評価を実施した。評価結果については、評価者である校長を通して市教委に報告され、県教委へも進達した。</p> <p>(2) 研修会の開催</p> <p>○夏季学校経営・運営研究協議会＜8月＞</p> <p>管理職の学校経営・運営能力の向上を図るため、校長・教頭を対象とした夏季学校経営・運営研究協議会を実施した。（支出額 50,000 円）</p> <p>○臨時的任用教職員研修会＜7月＞</p> <p>臨時的任用教職員を対象として、教育公務員としての自覚を高めるためにサービスの在り方等について研修会を実施した。</p> <p>(3) 教員免許更新対象者の更新講習受講確認</p> <p>文部科学省や県教育局からの免許更新講習の情報を活用し、教員への周知を図った。平成 24 年度は 21 名が更新講習を受講し、修了証明書を受領した。</p>			
3. 上記2に対する評価			
<p>(1) 教職員人事評価の実施</p> <p>臨時的任用教職員の資質向上を目的として、研修会を実施した。教育公務員としての自覚を高め、サービス規律の徹底や学習指導のあり方などについて研修した。その成果として、学校事故や不祥事の防止に対する意識の高揚、児童・生徒の学力向上に向けた授業改善につながっている。</p> <p>(2) 研修会の開催</p> <p>夏季学校経営・運営研究協議会では、指導者の講演及び校長部会・教頭部会に分かれての事例発表に基づく研究協議を実施し、校長・教頭の学校経営力・運営力の向上につながった。</p> <p>(3) 教員免許更新対象者の更新講習受講確認</p> <p>教員免許更新対象者の把握と更新講習の受講確認、修了確認申請・証明書の交付を確実に行うことができた。</p> <p>(4) 人事評価</p> <p>人事評価に関しては、年度当初「校長の目指す学校像」に基づき、教職員が「目標・方策」を具体的に検討し、自己評価シートを確実に作成することができた。また評価者である校長・教頭と教職員で自己評価シートに基づき計画的に面談（当初・中間・最終）を行い、指導助言を与え、個々の教職員の指導力、更には学校力の向上に繋がる具体的な取組が実施できた。</p>			

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

- (1) 「管理職を対象とした評価者研修会を実施し、講義・演習を通して人事評価のための技術を向上させる。」としていたが、学校での実践もあり、管理職は人事評価の技術が向上した。そのため平成24年度は本研修会を実施しなかった。
- (2) 「教職員の資質・能力の向上には、教員免許更新講習も含めた研修が重要である。市教委主催研修など、内容について精査するとともに、今後も教職員のライフステージに応じた研修等、時宜を得た研修を実施していく。」としたが、臨時的任用教職員研修会では、サービス面での指導と併せ、授業力の向上のポイント等、教育公務員としての自覚と指導力の向上を図ることができた。

4. 25年度以降の取組み

- (1) 管理職を対象にした夏季学校経営・運営研究協議会を引き続き実施し、学校の教育指導や管理運営等について、管理職としての能力を高める。
- (2) 臨時的任用教職員研修会の内容を充実させ、若手教員や経験の少ない教員の事故防止を図るとともに、教員としての資質・能力の向上に努める。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校評議員会の設置事業		学務課
予算額	369,000円	決算額	368,500円
1. 事業概要			
<p>特色ある教育活動を主体的に展開するためには、外部の意見を取り入れ、常に改善していくために、学校評議員を委嘱した。</p>			
2. 事業実績			
<p>学校評議員とは、教育活動の実施、学校と地域社会の連携の推進等、校長の行う学校運営に関し意見を述べ、又は助言を行う者である。</p> <p>各小・中学校に5名ずつ（11校合計55名）の学校評議員を教育委員会が委嘱した。各学校では、学校評議員会を開催し、授業や行事の参観等を通して、学校運営等について貴重な意見や助言をいただいた。</p> <p>開催回数 2回（1校） 3回（8校） 4回（2校）</p> <p>主な内容 「学校概要説明」「授業・行事参観」「施設設備見学」「学校アンケート」 「教育活動を振り返って」「児童生徒の状況」「安全について」「入試について」 「学校応援団について」「学校評価について」等</p>			
3. 上記2に対する評価			
<p>（1）各学校において学校評議員会を開催し、児童生徒の様子や施設設備の様子を見ていただく中で、児童生徒の様子の変化を指摘されたり、複数年評議員をされている方からは、過去の状況と比較して意見をいただいたりと、学校運営のより良い改善に役立った。</p> <p>（2）学校評議員の方からの教職員のあり方等の意見や助言を伝えることにより、教職員の意識や行動が変わった。</p> <p>（3）学校評議員会の開催回数が年間2回（1校）、3回（8校）、4回（2校）と各校で差が生じた。今後は学校の実態も考慮しながら、市教委として指導していく。</p>			
前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価			
<p>「学校評議員から出された意見を教職員に伝えることにより、教職員の意識啓発につながっており、「外部の目」から見た情報として今後も活用していく。」としていたが、学校評議員の方々から出された意見・助言は学校職員には気づかない内容もあり、学校運営のより良い改善に役立った。保護者・地域の学校への理解も深まり、有効な取り組みとなっている。</p>			
4. 25年度以降の取組み			
<p>（1）24年度以降は、一昨年度から立ち上げた学校関係者評価委員会の取組とも連携させ、より良い取組となってきたため、今後も継続して実施していく。</p> <p>（2）各校における学校評議員会の開催状況や内容を集約し、各校へ情報提供することで、より良い評議員会となるよう支援していく。</p>			

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校関係者評価委員会の設置事業		学務課
予算額	132,000 円	決算額	76,000 円
1. 事業概要			
<p>学校が行う自己評価の客観性及び透明性を高め、教育活動その他学校運営の改善をするために学校関係者評価委員会委員を委嘱した。</p>			
2. 事業実績			
<p>学校関係者評価委員会委員は、学校が行う自己評価の結果を評価することを通じて、学校の自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校・家庭・地域が学校の現状と課題について共通理解を深め、相互の連携を促し、学校運営の改善を促進している。</p> <p>委員数：8名（6校）、7名（3校）、6名（2校）</p> <p>活動回数：1回（1校）、2回（3校）、3回（6校）、4回（1校）</p> <p>主な内容：学校の教育活動視察、学校自己評価の報告を受けての協議 学校評価結果報告の作成</p>			
3. 上記2に対する評価			
<p>(1) 学校関係者評価を行うにあたり、「桶川市立小中学校学校評価実施要領」を定めたことにより、学校の自己評価の基準を示すことができ、各小・中学校でばらばらであった評価基準が統一されてきた。</p> <p>(2) 年間1～4回開催される学校関係者評価委員会で、委員からいただいた評価により、各学校が自らの教育活動やその他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図ることができた。</p> <p>(3) 学校の説明責任として、学校評価の実施・結果の公表を確実に行った。保護者・地域住民からの理解と参画を得るとともに、学校評価の結果を次年度の学校運営改善の指針として活かすことができた。</p>			
前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価			
<p>「学校が実施する自己評価の客観性や透明性を高め、学校と保護者及び地域住民等が学校運営の現状と課題について共通理解をもち、教育活動その他学校運営の改善に資することを目的として、「桶川市立小・中学校学校関係者評価委員会設置要綱」に基づく学校関係者評価の実施・充実を図っていく。」としていたが、委員からの評価により、各学校が自らの教育活動やその他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図ることができた。</p> <p>また、学校の説明責任として、学校評価を実施し結果を公表することにより、保護者・地域住民から理解と参画を得て、連携・協力による学校づくりを推進することができた。</p>			
4. 25年度以降の取組み			
<p>(1) 評価項目や規準、評価方法などの課題を明確にし、次年度以降に生かしていく。</p> <p>(2) 各学校の学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じていく。</p> <p>(3) 各学校に対して学校だよりや報告書、学校のホームページを使つての学校評価の公表の仕方について情報提供や支援を行い、家庭や地域住民に対し一層の説明責任を果たしていく。</p>			

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基 本 事 業	家庭の教育力の向上（2011）		
事 業 名	P T Aリーダー研修会	生涯学習スポーツ課	
予 算 額	25,000 円	決 算 額	12,000 円
1. 事業概要			
<p>小・中学校P T A役員等を対象に、各小・中学校P T A活動の促進及びP T A家庭教育学級の企画運営方法や家庭教育のあり方等について研修を行った。</p>			
2. 事業実績			
<p>P T Aリーダー研修会を以下のとおり開催した。</p> <p>開催日：平成24年5月24日（木） 会場：桶川東公民館</p> <p>講師：福田盛光氏（元桶川市P T A連合会顧問）</p> <p>テーマ：「P T Aの組織と役割 - P T A役員に求められているもの-」</p> <p>参加者：52名</p>			
3. 上記2に対する評価			
<p>(1) P T A活動の促進と役員の意欲づけについて</p> <p>福田氏の講演を通して、「P T Aの組織や役割について」や「P T A活動における意識の仕方」等の知識が得られ、各学校のP T A活動の促進につながった。</p> <p>(2) 研修会の運営・内容について</p> <p>ここ数年、講演会中心の内容となっているが、参加者の姿勢がやや受動的になる傾向がある。新人役員の参加が多い現状を考えると、講演会中心の内容から、演習活動を盛り込んだ参加型研修会への移行も視野に入れたい。</p>			
前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価			
<p>「本事業は、ねらいや効果を考えると、引き続き実施していく方針である。とくに、講師の選定については、関係機関の情報等をさらに活用し、本事業のねらいが達成できるよう、さらに工夫をしていきたい。また、各単位P T Aの参加者数の増加を図るために、各学校への働きかけをさらに強化し、50名以上の参加を達成していく。」としていたが、50名以上の参加を達成できた。</p> <p>また、「研修会の内容も、演習活動を盛り込んだ参加型研修会のあり方も検討し、実施していきたい。」としていたが、昨年度と同様に講演会中心の内容であった。</p>			
4. 25年度以降の取組み			
<p>引き続き実施していく。とくに、講師の選定については、関係機関の情報等を活用し、本事業のねらいが達成できるよう、さらに工夫をしていく。また、P T A活動への参加者の増加を図るために、各学校への働きかけをさらに促進し、50名以上の参加を引き続き達成していく。</p> <p>研修会の内容について、上記3の内容を踏まえ、演習活動を盛り込んだ参加型研修会のあり方も検討する。</p>			

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	PTA家庭教育講演会		生涯学習スポーツ課
予算額	105,000円	決算額	100,000円
1. 事業概要			
<p>小・中・高のPTAが連携し、家庭教育の充実を図るため、桶川市PTA連合会と高等学校との共催で、PTA家庭教育講演会を開催した。</p>			
2. 事業実績			
<p>PTA家庭教育講演会『手をつなごうべに花講演会』を以下のとおり開催した。 開催日：平成25年1月19日（土） 会場：桶川市民ホール 講演会 テーマ「オリンピックにみる、勝てるチームづくり」 講師 杉山明美さん（元オリンピック選手） テーマ「やる気と自信をもたせる親の接し方」 講師 島田正美さん（県立総合教育センター電話相談員） 対象者：小・中学校PTA会員 桶川高校・桶川西高校PTA会員 一般市民 参加者数：450名 その他 講演と併せて、東日本大震災の被災地の一日も早い復興を願い、義援金の受付を行った。また、アトラクションとして桶川高校吹奏楽部と桶川中学校吹奏楽部の演奏が行われた。</p>			
3. 上記2に対する評価			
<p>（1）家庭教育力の向上と青少年の健全育成について 今年度は、教育委員会とPTA連合会、桶川高校PTAに、桶川西高校PTAが共催の輪に加わり、小、中、高のPTAが連携し、より幅広い年齢層の子どもたちを育てるという趣旨において、大変有意義な事業となった。 講師の知名度や講演会のテーマから、多くの参加者があり、本年度も共催の意義は達せられ、幅広い保護者の意識と教養が深まった。</p> <p>（2）講演会の準備、運営、内容について 事前の準備会議では、講師の人選、予算の使途、役割分担等、前年度の反省をもとに活発な意見交換がなされ、PTA相互の連携が深まった。 講演会については、開催の趣旨と講師の選定が合致するよう配慮された。なお、平成24年度は2つ講演を行ったが、やはり1つにしたほうがよいという意見が多かった。さらに、アトラクションを取り入れたことも、多くの参加者を得たことに寄与している。</p>			

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「事業のねらいが家庭の教育力の向上という今日的なものであること、多くの参加者があること等の理由により、引き続き24年度以降も実施していく方向である。」、また、「講師の選定や当日の運営方法、予算の効果的な運用等については、準備会議等で十分に協議し、参加者の家庭での教育の実践化に向け、さらなる見直しを行い、実施していきたい。」としていたが、講師の選定や当日の運営、予算の運用について会議で十分に協議し、実施できた。

4. 25年度以降の取組み

引き続き実施していく。講師の選定や当日の運営方法、予算の効果的な運用等については、準備会議等で十分に協議し、参加者の家庭での教育の実践に資するよう、見直しを行う。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	「親の学習」講座		生涯学習スポーツ課
予算額	55,000円	決算額	35,000円

1. 事業概要

より多くの保護者に、子育てやしつけ等の家庭教育のあり方を見つめ直してもらうため、就学時健康診断（小学校）と新入生保護者説明会（中学校）の実施日を活用して、「親の学習」講座を行った。

2. 事業実績

(1) 小学校

就学時健康診断と同時に実施した。埼玉県家庭教育アドバイザーの永原敏明さんを指導者として、「早寝 早起き 朝ごはん」やスマートフォン使用の危険性などをテーマに家庭教育に関する学習を行った。

参加者数は、合計で665名であった。

学 校 名	桶川西小	加納小	川田谷小	桶川東小	日出谷小	朝日小	桶川小
対象者数(人)	120	55	55	145	90	105	135
参加者数(人)	111	53	47	142	81	95	136
参加率(%)	93	96	85	98	90	90	101

(2) 中学校

新入生保護者説明会と同時に実施した。埼玉県家庭教育アドバイザーの永原敏明さんと埼玉県ネットアドバイザーの大山かおこさんを指導者として「携帯電話及びインターネットに潜む危険性」をテーマに、携帯電話を使ったインターネット利用の危険性に関して学習を行った。

参加者数は、合計520名であった。

学 校 名	桶 川 中	桶川東中	桶川西中	加 納 中
対象者数(人)	206	185	170	113
参加者数(人)	200	75	165	80
参加率(%)	97	41	97	71

(3) 参加状況

小・中学校全体の参加率は、目標値80%を上回る86%であった。

3. 上記2に対する評価

(1) 小学校での実施について

就学前教育の支援・充実というねらいを考えると、全保護者を対象に実施するのが適切である。

したがって、ほとんどの新入児童及び保護者が参加する就学時健康診断の際に実施することにより、当初の目的を果たすことができた。

各小学校にも協力を要請し、児童が保護者から離れて健康診断を受けている時間を活用し、家庭教育アドバイザーの効果的な講話を提供することができた。

(2) 中学校での実施について

24年度から、桶川東中学校を除く3校で学校説明会の前に講座を設定したことにより、参加率が大きく上昇した。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「小学校での就学時検診時の講座、中学校での入学説明会での講座という形が定着しており、多くの参加者を見込めることから、24年度以降も引き続き実施していく方向である。特に、中学校での実施については、参加者をできる限り確保するために、学校側の入学に向けての説明の前に、講座をさせていただくことをお願いしているところである。」としていたが、中学校での実施について、3校で学校側の入学説明の前に講座をさせていただくことができ、参加率が大きく上昇した。

また、「内容については、23年度の中学校の講座にネットアドバイザーを追加招聘し、効果的な内容となったので、24年度以降についても家庭教育アドバイザーとネットアドバイザーの2人講師体制で講座を進めていきたい。また、開催時間の調整をしたい。」としていたが、24年度も引き続き家庭教育アドバイザーと、ネットアドバイザーの2人講師体制で講座を行うことができた。

4. 25年度以降の取組み

(1) 実施のあり方について

小学校での就学時検診時の講座、中学校での入学説明会での講座という形が定着しており、多くの参加者を見込めることから、25年度以降も引き続き実施していく。

また、中学校での実施について、説明会の前の開催により参加者を多く確保することができたため、25年度以降も、引き続き説明会の前に実施できるよう各中学校にお願いをしていく。

(2) 内容について

25年度以降についても家庭教育アドバイザーとネットアドバイザーの2人講師体制で講座を進めていく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	青少年の健全な育成（203）		
基 本 事 業	生きる力を育む活動の充実（2031）		
事 業 名	成人式典	生涯学習スポーツ課	
予 算 額	239,000 円	決 算 額	227,738 円

1. 事業概要

「成人の日」を成人になったことを自覚する記念の日とし、新成人の新しい門出をともに祝福するとともに、将来の幸福を祈念するために、成人式典を実行委員会方式にて実施した。

2. 事業実績

開 催 日：平成25年1月14日（月） 成人の日

開催場所：桶川市民ホール

開催内容

第1部 式典

第2部 アトラクション

参加状況

開 催 年	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	目 標 値
対象者数	797 人	725 人	726 人	750 人	750 人	—
出席者数	622 人	579 人	571 人	586 人	578 人	—
出席率	78.0%	79.9%	78.7%	78.1%	77.0%	82%

実行委員会

実行委員は広報による公募や卒業中学校から推薦された新成人17名で構成され、成人式典の企画、案内状発送作業及び前日準備、当日の運営についても主体的に行った。

3. 上記2に対する評価

(1) 実行委員会について

広報による公募を行っているが応募者は少ない。また、学校からの推薦者も受け手が少ない状況で、実行委員になった方の友達により構成されている。

成人式典の企画、案内状発送作業及び前日準備については、特に問題が起きずにスムーズに行うことができた。

(2) 当日の実施状況

当日は、大雪となり、会場の周りも積雪したが、雪かき等の対策を十分に行えなかった。

また、国家斉唱の時に、伴奏を CD-R1 枚による録音で対応していたが、本番において音声流れなくなってしまうといったトラブルも起きた。

新成人の出席率は70%台が数年続いている。目標である82%（総合振興計画）に近づけるために、成人式の周知についてさらに努めていく必要がある。

(3) その他

新成人式研究会主催の「成人式大賞」（文部科学省後援）では成人式奨励賞を受賞した。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「昨年度に引き続き実行委員会形式で開催していく。」としていたが、引き続き、実行委員会形式で開催できた。

「成人式典の周知の方法について検討していく。」としていたが、昨年度と同様に広報・ホームページ・案内状で周知を行った。

4. 25年度以降の取組み

- (1) 昨年度に引き続き実行委員会形式で開催していく。
- (2) 成人式典の周知の方法についてさらに検討していく。
- (3) 天候不良や当日の急な事故等に対応するためのマニュアルを作成する。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	青少年の健全な育成（203）		
基 本 事 業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事 業 名	放課後子ども教室事業	生涯学習スポーツ課	
予 算 額	4,726,000 円	決 算 額	4,556,464 円

1. 事業概要

子どもたちが、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる安全かつ安心な居場所づくりを目的に桶川市放課後子ども教室を開設した。

2. 事業実績

(1) 開設

国が推進している「放課後子どもプラン」に基づき、桶川東小学校・会議室及び日出谷小学校・視聴覚室を実施場所とし、9月5日から3学期末まで放課後子ども教室を開設した。

(2) スタッフ

本事業は、教育委員会がコーディネーターを各校2名ずつ選任し、さらに公募によって学習アドバイザー、安全管理員、協力員を置いた。

また、コーディネーターとともに放課後子ども教室事業の運営について検討するため、学校長、PTA、自治会及び行政関係者からなる運営委員会を組織した。

	スタッフ人数総数
桶川東小学校	26人・3団体
日出谷小学校	32人・2団体

(3) 参加者と事業内容

	参加児童人数	参加児童人数内訳
桶川東小学校	28人	1年生14名 2年生8名 3年生5名 4年生1名
日出谷小学校	21人	1年生10名 2年生6名 3年生5名

[事業方針]

各放課後子ども教室では、以下の方針のもとに事業を実施した。

- ① 交流の場を設けることにより、地域住民及び異なる学年との交流の場を支援する。
- ② 体験の場を設けることにより、文化活動、体験活動、スポーツ活動等を支援する。
- ③ 学びの場を設けることにより、自主的な学習を支援する。

3. 上記2に対する評価

(1) 開設

開設する学校区の区長への説明、学校との調整、運営委員会委員の委嘱、コーディネーターの選任、スタッフの公募、参加児童募集などの開設に向けての業務を経て、予定どおり平成24年9月5日に開設式を行うことができた。

(2) スタッフ

コーディネーター及びスタッフへの事前研修等がほとんどできないまま開設となったので、活動予定の編成、スタッフへの業務の説明、参加児童の対応など、コーディネーターの負担が大きかった。

(3) 参加者と事業内容

子どもたちからは、「毎日楽しい」、「今までやったことのなかったことができる、ふれあい活動が楽しい」との声があった。

また、保護者からも、以下の評価をいただいている。

- ・ 普段体験できないことにチャレンジしたり、教えてもらったりして、貴重な時間が過ごせた
- ・ 始まる前は時間を持てあましていたが、充実した放課後の時間を過ごせるようになった
- ・ 異学年、他のクラスのお友達ができた。地域の方（スタッフ）と仲良くなった

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「9月より桶川東小学校、日出谷小学校の2校で開設をする。」としていたが、予定通り開設することができた。

「開設に当たり、開設する学区の区長並びに学校との調整を行う。」としていたが、区長への説明会を実施し、また、学校とは準備段階から調整を行った。

「運営するスタッフ（学習アドバイザー・安全管理員・協力員）の募集を行う。コーディネーターについては、教育委員会で選任をする。」としていたが、予定通りスタッフの募集とコーディネーターの選任を行い、事業を開始することができた。

4. 25年度以降の取組み

引き続き桶川東小学校、日出谷小学校の2校で事業を実施する。

平成24年度及び25年度の実施状況を検証し、平成26年度における新規開設校の検討、開設時間や事業内容等を再検討する。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事業名	青少年健全育成事業	生涯学習スポーツ課	
予算額	1,859,000円	決算額	1,817,710円

1. 事業概要

青少年育成活動を推進するために下記の事業を行った。

- (1) 青少年問題協議会の開催
- (2) 青少年健全育成市民会議の推進
- (3) 青少年育成団体への支援

2. 事業実績

青少年健全育成のため、各団体を主体として次のような事業を実施した。

(1) 青少年問題協議会の開催

7月と2月に会議を実施し、青少年を取り巻く問題について各委員からの現状報告を受け、桶川市の青少年の状況を確認し、情報の共有化を図った。

(2) 青少年健全育成市民会議の推進

① 総会・講演会の実施（5月19日、東公民館で開催）

講師：稲本義範氏

テーマ：「子どもを地域の目で見守る～青少年の万引き犯罪の実態から～」

参加者：91名

② 私たちの主張作文コンクール、家庭の日ポスターコンクールを実施

③ 市民大会の実施（11月25日、東公民館で開催）

青少年育成功労賞・善行賞の表彰、作文・ポスターコンクール入賞者の表彰及び以下の講演会を行った。

講師：辻川牧子氏

テーマ：「今に活かす江戸の知恵～家庭と地域で子どもを育てる～」

参加者：191名（目標値230人）

④ 市民会議広報「ひまわり」の発行（1月1日発行 全戸配布）

⑤ 親子ふれあいウォークの実施（第1回加納、第2回川田谷）

青少年育成埼玉県民会議より補助金を受けて、以下のとおり実施した。

	実施日	実施地区	参加者数
第1回	10月6日	加納	121名（44組）
第2回	10月27日	川田谷	87名（37組）

⑥ おけがわ春のふれあいフェスタへの参画（5月13日、駅西口公園で開催）

⑦ 子ども教室の実施

あそびっこ（朝日小学校） 11回実施 参加者数 合計 360名

(3) 青少年育成団体への支援

各青少年関係団体や事業に対して、補助金等の交付や公共施設の利用の支援を行った。

[補助金等交付実績]

件 名	金 額
桶川市青少年健全育成市民会議交付金	672,000 円
桶川市子ども会育成連絡協議会補助金	680,000 円
青少年相談員協議会補助金	154,000 円
おけがわ春のふれあいフェスタ実行委員会交付金	200,000 円

3. 上記2に対する評価

(1) 青少年問題協議会の活動

参加委員より各々の立場から現状報告があり、オートバイ・自転車盗、万引きなどが増加していることなどが報告され、活発な意見交換がなされた。2回目の問題協議会では、子どものスマートフォン利用の危険性などについて意見交換が行われた。

これらの審議を通じて、青少年健全育成の充実が図られた。

(2) 青少年健全育成市民会議の推進

総会及び市民大会の講演会の内容は、ともに今日的なテーマであり、参加者にとって興味深いものであった。しかしながら、参加者数が目標値（230人）を下回った。

作文・ポスターコンクールについては、応募作品数が学校ごとで大きな差があり、より周知を進める必要がある。

(3) 青少年育成団体への支援

財政的な支援を行うことで、青少年健全育成の推進が図られている。また、補助金等も効果的かつ適正に執行されている。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

(1) 青少年問題協議会

「青少年健全育成推進体制の充実を図るため、青少年問題協議会事業については、引き続き各団体からの現状報告や県の動きに対する対応の共有化を図る。また、協議会で共有された情報を青少年健全育成市民会議の活動に反映できるよう、仕組みを定着させる必要がある。」としていたが、青少年問題協議会における各団体からの現状報告等をお互いに共有するとともに、今後の事業展開への参考とすることができた。

(2) 青少年健全育成市民会議

「青少年健全育成推進体制の充実を図るため、青少年健全育成市民会議の各種事業については、PRの充実と、引き続き時代のニーズにあった事業の展開を図る。」としていたが、青少年健全育成市民会議事業については、事業ごとに小学生を通して全家庭にチラシを配布するなどのPRを積極的に行うとともに、時代のニーズに合った事業を企画し、「親子ふれあいウォーク」の参加者の増加に努めた。

4. 25年度以降の取組み

(1) 青少年問題協議会

引き続き各委員からの現状報告を行い、情報の共有化を図る。また、協議会で共有された情報を青少年健全育成市民会議の活動に反映できるよう、連携を深める必要がある。

(2) 青少年健全育成市民会議

各種事業については、PRの充実を図り、引き続き時代のニーズに即した事業展開を行う。

(3) 青少年育成団体への支援

子ども会参加者及び青少年相談員加入者数はほぼ横ばいの状況である。引き続き同額の財政支援を行い、青少年育成団体の活動を促進していく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基 本 事 業	多様な学習機会の提供（2041）		
事 業 名	生涯学習情報の提供とサポート事業	生涯学習スポーツ課	
予 算 額	1,473,000 円	決 算 額	1,321,749 円

1. 事業概要

生涯学習情報を広く市民に知っていただくために、生涯学習情報紙を発行し、ホームページ上にも各種情報の掲載を行った。

また、パソコンサポートセンターを開設し、市民からの疑問や相談に応じた。

2. 事業実績

(1) 生涯学習情報の提供

一般市民向け及び児童生徒向けに以下の情報提供を行った。

① 情報紙「生涯学習ガイド」の発行

市内で開催される講座等の情報を掲載した情報紙「生涯学習ガイド」を年3回（4月、8月12月）発行し、公民館等の公共施設に配布し、市民の学習機会について周知を行った。また、同様の内容を市のホームページにも掲載した。

② 児童・生徒向け学習情報紙の発行

夏休みに開催される、主に小・中学生を対象とした催し物を紹介する「今度は何をしようかな？」を7月に発行し、全児童・生徒に配布した。

(2) パソコンサポートセンターの開設

パソコンの活用に関する疑問や相談に応じる「パソコンサポートセンター」を毎週金曜日に開設した。利用者数は638人であった。

3. 上記2に対する評価

(1) 生涯学習情報の提供

各課・施設の協力の下、幅広く情報を収集し、情報提供を行うことができた。生涯学習情報については、配布した情報紙が足りなくなるケースもあり、発行部数を増やしていく必要がある。

(2) パソコンサポートセンターの開設

パソコン講座実施期間中は講座受講者の補習の場として利用者が多くなる傾向がある。しかし、その期間以外は利用者の固定化が見られる。利用者数は昨年度よりも196名増加した。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

(1) 生涯学習情報の提供

「各課・施設と連携を図り、幅広く情報を収集し、内容の濃い情報誌を作成していく。生涯学習情報については、発行部数を増やす。」としていたが、生涯学習ガイドの作成にあたっては、一部内容構成を変更し、見やすさを向上した。また、べにばなふるさと館を配布施設として追加し、配布する市内施設数を増やした。

(2) パソコンサポートセンターの開設

「広報での周知やパソコン講座受講者への呼びかけを通じて、利用者の増大を図っていく。特に、広報の掲載内容について、再検討する。」としていたが、パソコン講習内において積極的にPRを行い、利用者数は昨年度よりも196名増加した。

4. 25年度以降の取組み

(1) 生涯学習情報の提供

引き続き、各課・施設と連携を図り、幅広く情報を収集し、内容の濃い情報誌を作成していく。生涯学習ガイドがどの程度市民の方々に手にとってもらっているのかがわからない状況なので、配布後に調査等を行い、事業評価が行えるようにする。

(2) パソコンサポートセンターの開設

平成25年度は総合福祉センター改修に伴い、加納集会所でパソコンサポートセンターを実施する。市内掲示板、公民館等へチラシを掲示し、周知を行っていく。利用者の固定化が進んでいるので、引き続き新規利用者を開拓する。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	市民大学の開催		生涯学習スポーツ課
予算額	160,000円	決算額	139,000円

1. 事業概要

多様な学習機会を提供するため、児童及び成人を対象として、それぞれ以下の事業を実施した。

- (1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設
- (2) 「桶川市平成市民大学」の開設

2. 事業実績

- (1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設

対象者：小学校4年生から6年生

参加者：20名

会 場：聖学院大学 日本薬科大学

〔学習内容〕

回	開催日	内 容	講 師 など
1	10/20 (土)	入学式 講義 「子どもの風土記 秋の子どもたち」 (はてな学・生き方学)	聖学院大学 阿久戸 光晴 氏 寺崎 恵子 氏 石川 由美子 氏 齋藤 理砂子 氏 川村 良枝 氏 井上 知洋 氏
2	11/24 (土)	講義① 「英語で学ぼう！アメリカやイギリスの習慣」(はてな学) 講義② 「各国留学生によるお国自慢」(はてな学)	聖学院大学 ①D. バーガー 氏 M. サベット 氏 E. D. オズバーン 氏 K. O. アンダスン 氏 J. ナイティンゲール 氏 ②各国留学生
3	12/15 (土)	講義・見学 「土の中からこんにちは」(ふるさと学)	上尾市生涯学習課職員 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
4	1/26 (土)	講義 「植物のチカラ〜くすりとくらし」 (はてな学・ふるさと学・生き方学)	日本薬科大学 糸数 七重 氏
5	2/16 (土)	講義・実験 「身の回りの水を調べてみよう、たしかめてみよう！」(はてな学・生き方学) 発表会 終了式	日本薬科大学 村橋 毅 氏

(2)「桶川市平成市民大学」の開設

テーマ：「豊かな教養を身につけよう」

参加者数：82名

開催回数：9回

延参加者：602名

〔実施内容〕

回	開催日	内 容	講 師 など
1	8/18 (木)	平成市民大学開講式 講義 桶川市の市政全般について	桶川市長 岩崎 正男 氏
2	9/15 (木)	講義 ヘレンケラーが心の支えとした日本人	立正大学教授 堺 正一 氏
3	9/22 (木)	講義 ソクラテスになって走る	立正大学教授 山西 哲郎 氏
4	10/13 (木)	消費生活講座	県消費生活総合センター 木下 久美子 氏
5	10/20 (木)	実習 五感で触れる漢方薬	日本薬科大学准教授 山路 誠一 氏
6	11/10 (木)	講義 クスリのつき合い方	日本薬科大学教授 佐藤 卓美 氏
7	11/24 (木)	歴史散歩 川田谷地区	桶川市ガイドボランティア
8	12/15 (木)	講義 世代と若者文化・この50年私たちは どのような青春を過ごしてきたのか	聖学院大学教授 清水 均 氏
9	12/22 (木)	講義 桶川の歴史と文化財	桶川市教育委員会 藤沼 昌泰

3. 上記2に対する評価

(1)「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設

他市町の学校の子どもたちが、交流しながら「はてな学」、「生き方学」、「ふるさと学」の3分野を大学のキャンパスで大学の専門家からわかり易い講義を受けることができ、大変有意義であった。

また、24年度から3市町の持ち回りで1回の講座を行うことになり、講座日数が4日間から5日間となり、より充実したカリキュラムとなった。

(2)「桶川市平成市民大学」の開設

テーマに基づき、歴史、教養、芸術等幅広い分野の講座を実施することができた。

また、講義内容の向上に努め、講師を大学教授など専門性の高い方にお願ひし、受講生の理解を深めることができた。

さらに、定員（50名）を大幅に上回る応募があり、これに対応することでより多くの方に学習機会の提供を行うことができた。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

(1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設

「引き続き2つの大学並びに2市1町で、子どもの学ぶ力や生きる力の向上に向けて開催をしていく。」としていたが、2つの大学、2市1町で開催できた。

(2) 「桶川市平成市民大学」の開設

「引き続き、多種多様な講座を実施し、市民への学習機会の提供に努め、市民の教養を深めていく。」としていたが、幅広い分野の講座を実施し、学習機会の拡大と教養を深めていくことができた。

4. 25年度以降の取組み

(1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設

引き続き、2つの大学並びに2市1町で、子どもの学ぶ力や生きる力の向上に向けて開催をしていく。また、平成26年度は桶川市が1回の講座を担当することになるため、調整・準備をしていく。

(2) 「桶川市平成市民大学」の開設

引き続き、多種多様な講座を実施し、市民への学習機会の提供に努め、市民の教養を深めていく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	職員出前講座		生涯学習スポーツ課
予算額	0円	決算額	0円

1. 事業概要

市民の学習環境の向上を図りつつ、市民と行政との交流を深めることを目的に、市職員が各部署の分掌事務に基づく学習メニューを用意し、市民の要請により講師を派遣して講座を開催した。

2. 事業実績

実施回数：7回

参加者延人数：970名

〔実施内容〕

	担当課	講座名	利用団体	参加人数
1	高齢介護課	聞いてみたい介護保険	桶川東中学校	184
2	都市計画課	中心市街地活性化ってなあに	桶川東中学校	184
3	企画課・都市計画課	桶川市のまちづくり	一般※1	10
4	環境課	みんなで実践環境保全	桶川東中学校	184
5	産業観光課	べに花ってな・あ・に	桶川東中学校	184
6	生涯学習スポーツ課	桶川市の歴史と民俗	桶川東中学校	184
7	保育課	保育所の保育士による出前講座	一般※2	40

※1 まちづくりの勉強会

※2 子育てクラブ

3. 上記2に対する評価

職員出前講座メニューは26講座があり、そのうち上記の7つのメニューが利用された。広報やホームページへの掲載により出前講座の周知を進めたが、平成23年度実績（実施件数14件、参加者延人数1,105名）に比べて開催講座数及び参加人数ともに減ってしまった。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「広報、ホームページ等で周知した職員出前講座メニューに掲載されているもの以外でも柔軟に対応していき、講座数を伸ばしていく。」としていたが、利用者のニーズをつかみきれず、前年度実績を実施件数及び参加人数ともに下回ってしまった。

4. 25年度以降の取組み

市民の求めに応じて職員出前講座メニューに掲載されている講座以外でも柔軟に対応し、講座数を伸ばしていく。他課に職員出前講座の趣旨への理解を深めてもらうよう勤め、講座の内容を充実させる。

また、周知を進めるために、自治会に回覧を回すことや小学校でも活用が図られるよう校長会を通じて要請することに努める。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	パソコン講習	生涯学習スポーツ課	
予算額	950,492円	決算額	881,522円

1. 事業概要

パソコン技術の向上を目的として、市民を対象にパソコン講座を行った。

2. 事業実績

実施状況詳細は、下表のとおりである。

講 座 名	受講者数（定員）	参加費
初心者講座（3コース）	43名（定員60名）	59,400円
ワードステップ1講座（3コース）	60名（定員60名）	49,500円
エクセル初級講座（3コース）	60名（定員60名）	49,500円
年賀状作成講座（3コース）	55名（定員60名）	39,600円
ワード作品づくり講座（3コース） ※共催事業	48名（定員60名）	会費制
デジカメ入門講座（2コース） ※共催事業	40名（定員40名）	会費制
合 計	306名	198,000円

※ 桶川ITネット共催

3. 上記2に対する評価

初心者講座の受講者数の減少が顕著である。例年通り、デジカメ講座については人気があり、申込者が多かった。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「応募者の動向を注視しながら、講座の内容について再検討していく。」としていたが、実施状況の評価に基づき今後のあり方について検討した。

4. 25年度以降の取組み

平成25年度は総合福祉センター改修による会場の都合から、パソコン講座は初心者講座のみを共催という形で行う。

また、平成25年度において現用のパソコンのリース契約が切れるため、26年度の5月からの講座開始を目標として新しいパソコンの導入について準備を行っていく。その導入準備にあたっては、現在のニーズに見合うパソコン環境を十分に調べ、市民にとって使いやすい環境を整備することに努める。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基 本 事 業	多様な学習機会の提供（2041）		
事 業 名	文芸桶川発行	生涯学習スポーツ課	
予 算 額	479,250 円	決 算 額	459,225 円

1. 事業概要

文芸活動を通じて豊かな人間性を養い、市民文化の創造と地域文化の普及向上に資することを目的として「文芸桶川」を発行した。

2. 事業実績

以下のとおり、「文芸桶川」第33号を発行した。

(1) 発行部数等

発行部数：300部

無償配布部数：執筆者及び県内教育委員会等 189部

有償頒布部数：27部

頒布価格：1冊800円

一般部門の応募料：400円

(2) 編集委員会

以下の団体から選ばれた計6名の委員による編集委員会を設置し、編集及び校正等を行った。

桶川市文化団体連合会文学会 2名 桶川市図書館実作協議会 1名

桶川市俳句連盟 1名 短歌関係団体 1名 桶川市教育研究会 1名

(3) 掲載作品分野および掲載作品数（掲載者数）

一般部門において応募作品は全て掲載し、ジュニア部門においては学校と編集委員会で選定した作品を掲載した。

○一般部門の掲載作品数(掲載者数)

小説・・・3編（3名） 連句・・・1巻（1名）

紀行・・・2編（2名） 随筆・・・10編（10名）

評論・・・1編（1名） 詩・・・2編（2名）

短歌・・・90首（18名） 俳句・・・110句（22名）

川柳・・・20句（4名）

○ジュニア部門の掲載作品数（掲載者数）

小説・・・5編（5名） 読書感想文・・・1編（1名）

詩・・・3編（3名） 短歌・・・13首（13名）

俳句・・・27句（27名）

○その他

表紙絵・・・1点（1名）

合計掲載作品（掲載者）数・・・289点（113名）

3. 上記2に対する評価

幅広い年齢の方から多くの応募があり、市民に文化活動の機会を提供することができた。
編集委員会においても、応募作品の校正、表紙の選定等を行い、充実した内容のものを発行できた。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「引き続き、従来どおり実施していく。作品募集についても、広報や各公共施設に応募用紙を設置することに加えて、前年度執筆者に募集の通知を送付するなど周知を行っていく。」としていたが、予定どおり文芸桶川第33号を発行することができたが前年度執筆者に募集の通知を送付したものの、平成24年度における一般の応募者は前年度より減少した。

4. 25年度以降の取組み

引き続き、従来どおり実施していく。作品募集についても、市広報や各公共施設に応募用紙を設置することに加えて、前年度執筆者に募集の通知を送付する。ジュニア部門については学校を通じて中学生から作品を募集するなど周知を行っていく。

また、頒布については、市広報やホームページ、市内公共施設窓口に設置するなど周知を行う。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	学習ボランティア推進事業		生涯学習スポーツ課
予算額	13,000円	決算額	8,904円

1. 事業概要

(1) 人財バンク事業の推進

学習ボランティアとして市民の学習活動を支援できる人材を「桶川み・ら・い塾—人財バンク」に登録し、活用を図った。

(2) ボランティア活動の推進

市民の学習活動における指導や支援を行う学習ボランティアの養成を図った。

2. 事業実績

(1) 人財バンク事業の推進

① 登録状況

人財バンクに登録された人材は、芸術文化、スポーツ・レクリエーション、家庭生活・趣味、教育等一般、人文・社会科学、自然科学、市民生活・国際関係などの幅広い分野にわたっている。

登録者数：43名 登録団体数：7団体

② 平成24年度人財バンク利用状況

	講座名	利用団体
1	スポーツ吹矢	親子
2	折り紙による切絵	親子
3	落ち葉かき、工作、焼き芋作り 他	親子
4	ガーデニング（野菜作り）	一般
5	リズム体操	一般
6	ストレッチ、リズム体操	一般
7	スポーツ・レクリエーション体操	学校
8	昔の遊び	一般

③ 人材バンクの周知

人財バンクの周知を行うために、広報やホームページへの掲載を行った。

また、人財バンクの周知のため、以下の催事を行った。

○人財バンク実演展示会

開催日：平成25年3月7日(木)・8日(金)

会 場：桶川市民ホール（ギャラリー プチホール）

参加団体：14団体 来場者：100名程度

(2) ボランティア活動の推進

ボランティア意識の醸成を目的として、パソコン指導者養成講座を実施した。これは桶川市協働のまちづくり支援事業で採択されたものである。埼玉県県民活動総合センターパソコン講師の峯岸直子氏を講師に迎えて1回4時間の講座を3回開催し、10名が参加した。

3. 上記2に対する評価

(1) 人財バンク事業の推進

人財バンク利用件数が減少しているため、周知方法等を改善する必要がある。人財バンク実演展示会についても平日に行ったため、小中学生及びその保護者の参加がほとんどなかった。来場者を増やすために開催時期や周知のあり方を検討する必要がある。

(2) ボランティア活動の推進

ボランティア活動に参加するきっかけを提供することができた。また、提案団体と生涯学習スポーツ課との協働で実施したことにより、互いの特性を生かした講座の企画運営ができた。

すなわち、提案団体は講座のサポートや講師との講座内容の調整に関して専門性を発揮し、会場の提供や受講生の募集などの事務作業では生涯学習スポーツ課の経験が有効に活用された。

また、専門的な高い能力をもつ講師による充実した講座を行うことができ、新しいパソコン指導者を養成することができた。その結果、今後において実施するパソコン講座で、講座の修了者を指導者として活用することによって市民の学習機会の拡大が期待できるようになった。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

(1) 人財バンク事業の推進

「人財バンク利用件数を増加させるため、周知の徹底を図っていく。特に人財バンク実演展示会については、開催時期の調整や他の事業との同時開催を検討する。」また、「人財バンクの活用について、市民及び団体からの依頼にとどまらず、教育委員会事業での活用も視野に入れて人財バンク事業を推進していく。」としていたが、PRのための実演展示会については、前年度と同時期の平日開催となってしまう来場者を増やすことができず、効果的な周知を行うことができなかった。また、人財バンクの活用についても十分に実施することができなかった。

(2) ボランティア活動の推進

「ボランティア養成講座については、実施形式について、1回の講演会形式ではなく、複数回行う演習形式の講座の実施も検討していく。」としていたが、協働事業により充実した連続講座を行うことができた。

4. 25年度以降の取組み

(1) 人財バンク事業の推進

人財バンク利用件数を増加させるため、周知の徹底を図っていく。特に人財バンク実演展示会については、開催時期の調整や他の事業との同時開催を検討する。

また、人財バンクの活用について、市民及び団体からの依頼にとどまらず、教育委員会事業での活用も視野に入れて推進していく。

(2) ボランティア活動の推進

講座内容の再検討にあたり、単独の講演会形式ではなく複数回行う演習形式の講座を実施することも検討する。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	生涯学習推進体制の整備		生涯学習スポーツ課
予算額	3,685,900円	決算額	3,552,380円
1. 事業概要			
<p>(1) 桶川市生涯学習推進会議の開催</p> <p>(2) 社会教育委員会議の開催</p> <p>(3) 社会教育指導員の設置</p> <p>(4) 社会教育関係委員合同研修会の開催</p>			
2. 事業実績			
<p>(1) 桶川市生涯学習推進会議の開催</p> <p>生涯学習に関する総合的な施策の推進について年2回の会議を実施し、生涯学習スポーツ課で実施している生涯学習事業について審議した。</p> <p>(2) 社会教育委員会議の開催</p> <p>社会教育に関して審議するため年3回の会議を実施し、生涯学習スポーツ課で実施している生涯学習事業について審議した。</p> <p>また、前年度より引き続き「地域ボランティアの課題と活性化」というテーマで協議し、各委員の立場から活発な意見交換が行われた。</p> <p>(3) 社会教育指導員の設置</p> <p>社会教育の特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成のため2名を委嘱した。主に、桶川市PTA連合会の事務局、平成市民大学やふれあい学級の事業を担当した。</p> <p>(4) 社会教育関係委員合同研修会の開催</p> <p>社会教育委員、公民館運営審議会委員及び生涯学習推進会議委員が、合同で社会教育に関する研修会を行った。東京家政大学教授 山本和人氏を講師として、「これからの社会教育、生涯学習の在り方」についての講演会を実施した。</p>			
3. 上記2に対する評価			
<p>(1) 桶川市生涯学習推進会議の開催</p> <p>生涯学習について総合的に審議し、生涯学習の推進に寄与した。</p> <p>(2) 社会教育委員会議の開催</p> <p>各委員が所属団体の現状や課題等について意見交換を行ったことにより、会議の内容が深まり、ボランティア活動の推進に向けた意識を深めることができた。</p> <p>(3) 社会教育指導員の設置</p> <p>社会教育についての高い専門性をもって、PTA活動の支援や各種講座を開催することができた。</p> <p>(4) 社会教育関係委員合同研修会の開催</p> <p>上記3つの委員会が共通のテーマを基に研修に参加し、講師の話を聴くことにより併せて互いの課題や現状について情報交換を深めることができた。</p>			

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

(1) 桶川市生涯学習推進会議の開催

「桶川市生涯学習推進会議については、会議を実施し、生涯学習の推進について審議していく。」としていたが、予定通り年2回の会議を実施した。

(2) 社会教育委員会議の開催

「社会教育委員会議については、社会教育の普及・振興について審議していく。」としていたが、予定通り年3回の会議を実施した。

(3) 社会教育指導員の設置

「社会教育指導員を設置し、社会教育について企画・立案をし、普及・振興を継続して行っていく。」としていたが、前年度に引き続き2名の社会教育指導員を設置し、社会教育に関する事業や講座を実施することができた。

(4) 社会教育関係委員合同研修会の開催

「社会教育関係委員合同研修会を実施し、情報交換を深めていく。」としていたが、予定通り研修会を実施し、情報交換を深めることができた。

4. 25年度以降の取組み

(1) 桶川市生涯学習推進会議の開催

引き続き、会議を実施し、生涯学習の推進について審議していく。

(2) 社会教育委員会議の開催

引き続き、「社会教育の普及・振興」について審議していく。

(3) 社会教育指導員の設置

引き続き、社会教育について企画・立案をし、普及・振興を継続して行っていく。

(4) 社会教育関係委員合同研修会の開催

引き続き、3委員会合同の研修会を実施し、情報交換を深めていく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	地域スポーツ活動の推進（2042）		
事業名	総合型スポーツクラブ支援事業	生涯学習スポーツ課	
予算額	500,000円	決算額	500,000円
1. 事業概要			
総合型地域スポーツクラブの設立に向けた支援を行った。			
2. 事業実績			
文部科学省が推進している総合型地域スポーツクラブについて、設立に向けて円滑に活動が出来るよう、「総合型地域スポーツクラブ設立活動支援事業補助金交付要綱」を定めた。 補助金を交付し、設立に向けての支援を行った結果、「桶川総合型地域スポーツクラブこのゆびとまれ」が平成24年10月6日に設立された。			
3. 上記2に対する評価			
設立まで十分な支援をすることができた。			
前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価			
「このゆびとまれ総合型地域スポーツクラブは、平成24年10月を目途に設立を予定している。設立に向けて支援をしていく。」としていたが、予定通り、平成24年10月6日に設立された。			
4. 25年度以降の取組み			
設立後も安定した活動ができるよう、支援していく。			

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基 本 事 業	人材の育成と活用（2043）		
事 業 名	スポーツ指導者育成事業	生涯学習スポーツ課	
予 算 額	1,802,000 円	決 算 額	1,746,060 円
1. 事業概要			
スポーツ指導者の育成支援を行った。			
2. 事業実績			
スポーツ推進委員やスポーツ少年団事務局に情報提供を行い、その活動を支援した。 スポーツ推進委員及び体育協会加盟団体、スポーツ少年団の指導者を対象に「普通救命講習」を実施した。			
3. 上記2に対する評価			
各種研修会に多くのスポーツ推進委員が積極的に参加し、とくに、スポーツ少年団は認定指導員講習会への参加者が多く、指導者の確保につながった。 各団体において「普通救命講習」を実施し、AEDの取り扱いや応急手当について知識を深めた。			
前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価			
「引き続きスポーツ指導者の育成や支援を継続していく。」としていたが、各団体に情報提供をし、活動を支援した。その結果、各種研修会に多くのスポーツ推進委員が参加した。 「桶川市スポーツ少年団においても「普通救命講習」を実施していく。」としていたが、8月と2月の2回に分けて普通救命講習を実施した。			
4. 25年度以降の取組み			
引き続きスポーツ指導者の育成や支援を継続していく。 桶川市スポーツ少年団において、県内でも団活動中に事故等が発生しAEDを使用している事例があることから、さらに「上級救命講習」を実施する。			

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基 本 事 業	活動団体支援の充実（2044）		
事 業 名	スポーツ団体への支援事業		生涯学習スポーツ課
予 算 額	5,040,000 円	決 算 額	5,040,000 円

1. 事業概要

生涯スポーツの普及及び更なる推進を図るため、各種活動団体に対し支援を行った。

2. 事業実績

スポーツ団体等の支援・育成のため、以下のとおり補助金を交付した。

件 名	金 額
桶川市体育協会補助金	1,600,000 円
桶川市スポーツ少年団補助金	560,000 円
桶川市レクリエーション協会補助金	240,000 円
桶川市スポーツ推進委員連絡協議会補助金	240,000 円
地区別体育祭運営交付金	2,400,000 円

3. 上記2に対する評価

各スポーツ団体に補助金を交付することにより活動を支援し、生涯スポーツの普及・推進が図られた。

また、地区別体育祭は5年目の事業であったが、市内5箇所で開催（1箇所は雨天中止）され、区長及び体育関係者の協力により地区の特徴を生かした体育祭が開催された。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「各スポーツ団体等への助成関係では、一層スポーツの振興が図られるよう引き続き育成・支援をしていく必要がある。各地区での地区別体育祭実施に当たっては、実績等を踏まえ、各実行委員会に対する助成内容について検討していくこととする。」としていたが、桶川市体育協会、桶川市スポーツ少年団及び桶川市レクリエーション協会の協力により、子供から大人までの幅広い世代の生涯スポーツの普及・推進を図ることができた。

また、地区別体育祭は、各地区実行委員会が中心となり地域の特色を生かした体育祭が開催され、参加人数も増加した。平成24年度で第5回を迎える地区別体育祭は、各地区で足並みが揃いつつあるが、助成内容についてはさらに実態を見極め検討していきたい。

4. 25年度以降の取組み

25年度以降も引き続き、各種活動団体に対し支援を行い、更なる生涯スポーツの普及・推進を図っていく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	施設の充実（2045）		
事業名	スポーツ施設維持管理事業		生涯学習スポーツ課
予算額	76,533,000円	決算額	64,345,936円 ※25年度繰越額 12,000,000円

1. 事業概要

スポーツ関連施設の適切な維持管理を行い、生涯スポーツの普及、推進を図った。

2. 事業実績

(1) 学校体育施設開放事業

すべての小・中学校において、学校体育施設開放事業として施設が開放されており市民のスポーツ活動の拠点として利用された。

例年に引き続き、体育施設の維持管理に努めており施設の利用状況も次のとおりであった。

[登録状況]

区 分	団体数	利用人数
小学校施設利用団体	101 団体	2,320 人
中学校施設利用団体	36 団体	564 人
夜間照明施設利用団体	11 団体	466 人

(2) スポーツ施設の管理委託

桶川サン・アリーナ、桶川市舎人スポーツ・パーク、桶川市新小針領家グラウンド、桶川市総合運動場のスポーツ施設について、その管理、受付業務、利用料金収納業務等を（財）桶川市施設管理公社に委託した。

※ サン・アリーナ改修工事設計委託については、25年度に繰越（繰越額 12,000,000円）し、委託する。

(3) 屋外夜間照明施設の管理運営

市内唯一の屋外夜間照明施設である桶川中学校の照明設備について、清掃・点検業務を委託した。桶川中学校に夜間照明施設利用者用の整備用用具を入れるための倉庫を設置した。

3. 上記2に対する評価

既存の施設について、備品の更新や必要に応じた補修を行うことにより利用環境の改善を図ることができた。

桶川中学校に倉庫を設置したことにより、利用者の利便性の向上を図ることができた。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「既存の施設について備品の更新、必要に応じた補修改善を行う。」としていたが、既存の施設について備品の更新や必要に応じた補修を行うことにより利用環境の改善を図ることができた。

「サン・アリーナについて、修繕計画を立て改修工事を行う。」としていたが、平成26年度に向けて大規模なリニューアル改修を行う準備を進めた。

4. 25年度以降の取組み

既存の施設について備品の更新、必要に応じた補修改善を行う。

サン・アリーナについて、リニューアル改修を行う。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	人権教育・啓発と平和の推進（205）		
基本事業	人権教育の推進（2051）		
事業名	人権教育の推進	生涯学習スポーツ課	
予算額	3,507,520円	決算額	3,202,386円

1. 事業概要

桶川市人権教育基本方針の趣旨に基づき、社会教育、生涯学習の観点から市民の人権感覚の向上を目指し、人権教育の啓発と推進を行った。

2. 事業実績

(1) 桶川市人権教育推進協議会事業の充実（啓発の推進・研修会の充実・啓発広報紙の発行）

2回の協議会を実施し、委員の意見により、人権教育の啓発推進の現状、企業対象人権問題研修会の参加者増加に向けての方策等、さらなる工夫改善を図ることになった。

(2) 桶川市立集会所事業の充実（成人学級講座・文化講座・夏休み子ども教室）

成人学級講座は、年間延べ372人の参加があった。同和問題をはじめとする今日的な人権課題をテーマにし、講師を招聘しての講話や効果的なDVDの視聴等、実践化に結びつく内容となった。

文化講座については例年どおり実施した。（受講者数等については表2を参照）

夏休み子ども教室については、人権アニメの視聴、折り紙教室、習字教室を実施し、延べ参加人数は59人であった。

企業等対象の人権問題研修会は24人の参加があった。

○成人学級講座参加者内訳（表1）

回	内容および講師	桶川集会所	加納集会所	参加者
1	DVD視聴「私の中の差別意識」	5/17(木)	5/18(金)	72人
2	「刑を終えて出所した人の現状と人権」	7/13(金)	7/12(木)	41人
3	「高齢者の介護と人権」	8/17(金)	8/24(金)	73人
4	「部落差別と人権」	10/26(金)	10/25(木)	48人
5	DVD視聴「メンタルヘルスと人権」	11/15(木)	11/16(金)	60人
6	DVD視聴「めぐみ」	2/15(金)	2/14(木)	78人
			参加者計	372人
			目標値	370人

○集会所文化講座受講者数（表2）

集会所	教室名	受講者数	参加延べ人数
加納集会所	書道教室	17人	370人
	編み物教室	20人	407人
桶川集会所	書道教室	16人	336人
	トールペイント教室	15人	313人

○集会所事業主要経費 (表3)

項目	経費
文化講座講師謝礼	614,400円
集会所光熱水費	571,511円
集会所管理委託	1,241,000円
集会所清掃委託	446,250円
合計	2,873,161円

3. 上記2に対する評価

(1) 桶川市人権教育推進協議会事業の充実

協議会では参加委員の意見交換が活発になり、推進に向けての具体策が多く出された。人権・男女共同参画課や人権擁護委員等の関係機関との連携を強化しながら、より一層の啓発を推進する必要がある。人権標語の応募者が、5,841人と23年度より258人減少した。

(2) 桶川市立集会所事業の充実

成人学級講座の参加者数は、前年度比においてほぼ横ばいであった。特に代表者会議とともに実施されなかった成人学級講座については、参加者が少なかった。

文化講座、夏休み子ども教室については、受講者数の大きな変化はなかった。

企業等対象の人権問題研修会の参加者数は、前年度より4人減少した。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「桶川市人権教育推進協議会、集会所事業ともに事業内容の大幅な変更はないが、引き続き同和問題をはじめとする様々な人権課題の早期解決を目指し、市民の人権感覚の向上への推進役として両事業に関わる方々の意識を高めていく。」としていたが、人権教育推進協議会については、市民の人権感覚の向上への推進役として、委員の方々の意識を高めることができた。

「企業を対象とした人権問題研修会については、今日的な課題について意欲化と実践化を図れる講師の選定を行い、企業への声かけ等も強化しながら新しい参加企業を増やすよう留意したい。」としていたが、市内の商店にチラシを設置する等の周知を行ったが、参加企業の増加にはつながらなかった。

4. 25年度以降の取組み

(1) 桶川市人権教育推進協議会、集会所事業ともに事業内容の大幅な変更はないが、引き続き同和問題をはじめとする様々な人権課題の早期解決を目指し、市民の人権感覚の向上への推進役として両事業に関わる方々の意識を高めていく。

(2) 企業等を対象とした人権問題研修会については、今日的な課題について、意欲化と実践化を図れる講師の選定を行い、企業への声かけ等も強化しながら、新しい参加企業を増やすよう留意したい。また集会所文化講座は、参加者の意見を考慮しながら講座内容の見直しを図る予定である。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	個性的な地域文化の活用（2063）		
事業名	文化財説明板設置事業	生涯学習スポーツ課	
予算額	704,000円	決算額	703,500円
1. 事業概要			
文化財に関する情報提供をするため、文化財説明板の整備と改修を進めた。			
2. 事業実績			
未だに設置されていない文化財や既に設置されているものについて、新設又は老朽化等で判読しづらくなっているものを中心に順次改修していくこととし、平成24年度においては以下の文化財説明版を整備した。			
① 市指定文化財：矢部家住宅			
② 市指定文化財：松山以奈り道の道しるべ			
③ 登録有形文化財：小林家住宅主屋			
3. 上記2に対する評価			
これまで文化財に関する説明がなかった3件の文化財を対象に、説明板を設置したことによって見学者に対して情報提供を行うことができるようになった。			
前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価			
「平成23年度から平成27年度までの5ヵ年計画で、合計15件の文化財説明板の新設・改修を実施していく。」としてが、矢部家住宅（市指定文化財）、小林家住宅主屋（登録有形文化財）の2件について新設し、松山以奈り道の道しるべ（市指定文化財）は老朽化による交換を行った。			
4. 25年度以降の取組み			
平成23年度から平成27年度までの5ヵ年計画で、各年度3件ずつ合計15件の文化財説明板の新設及び改修を実施していく。平成25年度については、「天神道の道しるべ」、「加納天満神社」、「加納城跡」を対象に実施する。			

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財保存管理交付金交付事業	生涯学習スポーツ課	
予算額	163,000円	決算額	162,500円

1. 事業概要

市内に所在する個人所有の指定文化財の適切な保存を図るため、その管理者に対して当該文化財の管理又は維持に要する経費に対して「桶川市指定文化財保存管理交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。

2. 事業実績

文化財の指定区分に従い、以下のとおり交付金を交付した。

国指定文化財 10,000円×1件＝10,000円

県指定文化財 7,500円×5件＝37,500円

市指定文化財 5,000円×23件＝115,000円

合 計 162,500円

[交付対象文化財]

区 分	件数	種別	種類	名 称
国指定文化財	1	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像（泉福寺）
県指定文化財	1	有形	建造物	桶川宿本陣遺構
	2	記念物	史跡	熊野神社古墳
	3	記念物	天然記念物	倉田の大カヤ（明星院）
	4	記念物	天然記念物	光照寺コウヤマキ
	5	旧跡	旧跡	梵語学者盛典の墓（知足院）
市指定文化財	1	有形	建造物	諏訪神社本殿
	2	有形	歴史資料	天満神社の木製の額（氷川天満神社）
	3	有形	古文書	旧小針領家村松川家文書
	4	有形	古文書	旧五町台村渋谷家文書
	5	有形	古文書	旧倉田村荒井家文書
	6	有形	古文書	旧倉田村明星院領星野家文書
	7	有形	歴史資料	紅花商人寄進の石燈籠二基
	8	民俗	有形民俗	稲荷神社の力石
	9	有形	歴史資料	川辺の板石塔婆
	10	民俗	有形民俗	天神道の道しるべ
	11	民俗	有形民俗	樋詰の道しるべ
	12	民俗	有形民俗	名号塔兼ねた道しるべ
	13	記念物	史跡	原山古墳群
	14	記念物	史跡	原山古墳群
	15	記念物	史跡	木戸跡（下）
	16	記念物	史跡	木戸跡（上）

	17	記念物	史跡	加納城址
	18	記念物	天然記念物	シイガシ
	19	記念物	天然記念物	多気比売神社の大シイ
	20	記念物	天然記念物	ムクロジ
	21	記念物	天然記念物	普門寺のしだれ桜
	22	民俗	有形民俗	小針領家のささら獅子舞用具一式
	23	有形	建造物	泉福寺山門並びに石造仁王像一棟二軀

3. 上記2に対する評価

交付事業を通して文化財保護と保存についての意識啓発を図るとともに、所有者の協力を得て指定文化財を適切に管理することができた。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「平成24年度以降についても、現在指定されている指定文化財へ交付金を交付し、また、新たに文化財が指定されるごとに対応していく。」としていたが、交付を予定していた29件の指定文化財全件に対して、交付金を交付することができた。

4. 25年度以降の取組み

平成25年度以降についても、現在指定されている指定文化財へ交付金を継続して交付する。
また、新たに文化財が指定されるごとに対応していくとともに、平成24年10月1日に新たに指定した2件についても交付の対象とする。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基 本 事 業	文化財の保存と継承（2064）		
事 業 名	民俗芸能保存事業交付金交付事業	生涯学習スポーツ課	
予 算 額	570,000 円	決 算 額	570,000 円

1. 事業概要

伝統的な民俗芸能の保存に努める伝承団体に対し、その保存伝承及び後継者育成に要する経費に充てるため、「桶川市民俗芸能保存事業交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。

2. 事業実績

交付金額 30,000 円×19 団体=570,000 円

[交付対象民俗芸能及び伝承団体]

No	芸能の名称	団体の名称
1	岡村の囃子	岡村囃子連
2	岡村の万作	岡村万作保存会
3	加納の餅つき踊り	加納餅つき踊り保存会
4	上日出谷の囃子	上日出谷青年会
5	倉田の囃子	桶川市倉田祭囃子保存会
6	桶川市子どもばやし	桶川市本街子ども囃子保存会
7	小針領家ささら獅子舞	小針領家獅子舞保存会
8	下日出谷の囃子	下日出谷囃子連
9	下日出谷の餅つき踊り	下日出谷餅搗踊り保存会
10	下日出谷の万作	下日出谷万作踊り保存会
11	前領家のささら獅子舞	前領家ささら獅子舞保存会
12	松原のささら獅子舞	松原ささら獅子舞保存会
13	松原の真言	松原真言保存会
14	松原の万作	松原万作保存会
15	三田原のささら獅子舞	三田原ささら獅子舞保存会
16	三田原の万作	三田原万作連
17	麦打ち唄	桶川市麦ボーチ唄保存会
18	夫婦獅子舞・囃子	武州桶川宿本街保存会
19	薬師堂の囃子	薬師堂囃子連

3. 上記2に対する評価

無形文化財の保存についての意識啓発を図るとともに、各民俗芸能伝承団体の活動（後継者育成等）や今後の発展に寄与することができた。

「松原の真言」については、平成25年3月12日付けで埼玉県指定文化財へ指定された。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「平成24年度についても民俗芸能についての情報を収集していき、交付金の交付を含めた支援活動を行っていく。また活動を再開した民俗芸能があれば、随時対応していく。」としていたが、交付を予定していた19団体については交付することができた。また、休止状態にあった1団体について、活動復活の情報を元に当該団体の伝承状況の現地調査を行った。

4. 25年度以降の取組み

平成25年度についても民俗芸能についての情報を収集していき、交付金の交付を含めた支援活動を行っていく。活動の再開が確認された1件についても引き続き調査を行い、交付金の交付を検討していく。

また「松原の真言」（県指定）及び「小針領家のささら獅子舞」（市指定）については、平成25年11月2日に開催される埼玉県民俗芸能公演に出演が予定されている。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基 本 事 業	文化財の保存と継承（2064）		
事 業 名	指定文化財等展示活用事業	生涯学習スポーツ課	
予 算 額	86,000 円	決 算 額	42,000 円
1. 事業概要			
市内の文化財の活用を図るため、指定文化財に関する特別展示等を開催した。			
2. 事業実績			
平成23年6月27日に国の重要文化財に指定された「埼玉県後谷遺跡出土品」を公開し、市民等へPRするため以下の展示会を開催した。			
テーマ：重要文化財指定記念特別展示「後谷遺跡—縄文のタイムカプセル—」			
会 場：桶川市歴史民俗資料館（川田谷生涯学習センター内）			
期 間：平成24年3月11日から平成24年5月6日			
展示対象：国指定重要文化財「埼玉県後谷遺跡出土品」645点の内、400点			
3. 上記2に対する評価			
2ヶ月弱という短い展示期間にも関わらず、3,000人を超える来館者があり、重要文化財に指定された後谷遺跡の出土品について広くPRすることができた。			
また、県内や関東地方のみならず、遠くは九州、中国地方、中部地方からの来館者もあり、関心の高さが伺えた。			
前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価			
「平成24年5月6日まで後谷遺跡の特別展を開催する。終了後は歴史民俗資料館において保存をする。また、平成24年度から5ヵ年をかけて、100点の出土品を再度、保存処理を施す。学校や団体からの求めに応じて、出前講座等を実施する。」としていたが、特別展は3,000人以上の来館者に観覧いただき無事終了した。平成24年度から後谷遺跡出土品の適切な保存と活用のために、重要文化財保存修理事業をスタートさせた。			
また、市内中学校において、桶川の歴史再発見というテーマの授業（総合的な学習）を実施したほか、新規採用教員の初任者研究や平成市民大学等での講義を実施した。			
4. 25年度以降の取組み			
後谷遺跡出土品については、後谷遺跡出土品保存修理事業として別点検評価シートへ引き継ぐ。修理事業の終了したものについては、歴史民俗資料館で保管し、展示事業等の公開、活用に供する。また、学校や団体からの求めに応じた出前講座や研修等を実施する。			

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	後谷遺跡出土品保存処理事業	生涯学習スポーツ課	
予算額	4,990,000円	決算額	4,990,000円
1. 事業概要			
<p>国指定重要文化財の後谷遺跡出土品について、適切な保存管理・活用を行い、将来へ受け継いでいくことを目的に必要な保存修理を実施した。</p>			
2. 事業実績			
<p>保存修理は、漆製品、木製品（木で作られた道具）、土製品などの出土品のうち、脆弱なものや修復が必要なものに対して行い、平成24年度に関しては漆関係の木製品13点をその対象とした。良好な保存状態を確保するために、専用の保存箱を作製した。</p>			
3. 上記2に対する評価			
<p>保存修理を行うことで劣化の進行や損傷を防ぎ、重要文化財の適切な保存管理と継承ができるようになった。</p> <p>また、このことによって良好な状態での公開や活用の機会を増やすことが可能となり、今回修理したものを含む出土品が埼玉県立歴史と民俗の博物館の特別展（平成25年3月～5月開催）に出品された。</p>			
前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価			
<p>平成24年度からの新規事業のため、前年度分の点検評価はないが、平成23年度の重要文化財指定から速やかな保存修理事業計画の策定と予算措置ができた。</p>			
4. 25年度以降の取組み			
<p>平成24年度から5ヵ年をかけて、100点の出土品に保存修理を施す。平成25年度については木器・木製品17点および土偶1点の計18点について保存修理及び保存箱の作製を実施する。</p> <p>また、保存修理の終わったものについては、歴史民俗資料館に収蔵し、特別展示等の一般公開の機会を創出する。</p>			

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財調査事業	生涯学習スポーツ課	
予算額	14,000円	決算額	7,300円
1. 事業概要			
<p>市指定文化財への指定の可否を行なうため、指定に相当すると思われる未指定文化財の調査を実施した。</p>			
2. 事業実績			
<p>平成24年度は、以下の2件の文化財について桶川市文化財保護審議会において審議するために調査を実施した。</p> <p>〔調査対象文化財〕</p> <p>①矢部家住宅 ②新御堂の十一面観音立像</p> <p>桶川市文化財保護審議会における審議の結果、平成23年度まで調査を行った「泉福寺の銅製釣灯籠」と平成24年度まで調査を行った「矢部家住宅」の2件が、市の指定文化財に指定された。新御堂の仏像については、保管環境などについての検討を進めることとなった。</p>			
3. 上記2に対する評価			
<p>調査を実施することにより、文化財に関する貴重な情報を得ることができた。そのことにより、指定文化財に指定し、保護を図る際にも参考となる資料とすることができた。</p>			
前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価			
<p>「平成24年度については、①明星院の山門及び関連資料、②新御堂の仏像、③矢部家住宅についての調査を実施する。」としていたが、矢部家住宅については平成24年10月1日に市指定文化財に指定した。新御堂の仏像については、地元の協力の下、2度にわたって詳細な調査が実施できた。明星院の山門については、関連資料が収められていると思われる施設の調査について所有者からの承諾を得た。</p>			
4. 25年度以降の取組み			
<p>市内に所在する未指定の各種文化財について、随時調査を実施していく。</p> <p>平成25年度については、明星院の山門及び関連資料の調査の他、既に調査を実施した文化財を含めて、その指定を検討する。</p>			

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基 本 事 業	家庭の教育力の向上（2011）		
事 業 名	少子・高齢化対応事業	公民館	
予 算 額	405,000 円	決 算 額	322,200 円

1. 事業概要

少子高齢化が年々進んでいく中で、公民館はこれらに対応するための共通事業として、以下の事業を実施した。

- (1) 幼児・家庭教育セミナー
- (2) ふれあい学級

2. 事業実績

- (1) 幼児・家庭教育セミナー

人間形成の基礎となる幼児期に家庭教育の在り方について学習し、健全な家庭を築くとともに健やかな子育てのできる親の育成を図る一助として実施した。

[参加者の推移] (人)

21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	目標値
172	182	143	201	200

- (2) ふれあい学級

60歳以上の市民を対象に健康で充実した生活を送れるよう、多くの人とのふれあいの輪を広げるとともに、地域社会に貢献しようとする意識を高める工夫をした。

[参加者の推移] (人)

21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
827	856	904	924

3. 上記2に対する評価

- (1) 幼児・家庭教育セミナー

開催場所を桶川公民館から東公民館に変更したことにより、目標値の200人を超えた。

また、連続開催から期間を空けて前期・後期に分けて実施した結果、申込は増加した。

交流会等では、子育てに対する様々な姿勢や気づきに触れることができ、参加者には概ね好評であった。

- (2) ふれあい学級

「バラエティに富んだ内容で有意義な時間を過ごせた。」など、参加者には概ね好評であり、継続実施を求める意見が多かった。

4. 25年度以降の取組み

(1) 幼児・家庭教育セミナー

現在の子育て世代のニーズの把握に努め、平成24年度においては参加者が目標値の200人を超えることができた。今後においても興味・関心の高い魅力ある講座を実施するとともに、より多くの人に参加でき、目標値を超えられるよう実施時期、周知方法等について検討を加える。

(2) ふれあい学級

高齢者に関心の高い「健康」や実生活に役立つ内容をテーマにした講座を実施していくとともに、継続して参加してもらえるよう、より充実した内容を検討する。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基 本 事 業	多様な学習機会の提供（2041）		
事 業 名	公民館業務運営事業	公民館	
予 算 額	11,870,000 円	決 算 額	11,184,780 円

1. 事業概要

公民館の貸館業務等を円滑に処理して、市民に学習の場を提供した。

2. 事業実績

(1) 非常勤公民館長及び公民館運営審議委員の委嘱

公民館業務の企画立案の指導・助言、施設の管理等をするために、非常勤公民館長（2人）を活用した。

また、住民と公民館のパイプ役を担っている公民館運営審議会委員には、様々な視点から活発な意見をいただいた。

(2) 貸館業務管理人の配置

公民館施設の貸館事務（受付業務、許可申請、使用料の受領）に要する臨時職員を、必要に応じ適切に配置した。

また、夜間、土、日、祝日に公民館施設を利用者される方への十分な対応とサービスの提供をするために、3公民館(桶川公民館・加納公民館・川田谷公民館)にシルバー人材センターとの委託契約により貸館業務管理人を配置した。

〔公民館利用者数の推移〕 (人)

	21年度	22年度	23年度	24年度	27年度目標
利用者数	116,829	115,361	102,222	109,992	149,400
利 用 率	156%	153%	135%	146%	195%

※利用率＝利用者数／人口（27年度は将来人口）

(3) 「公民館のあり方」報告書の作成

社会教育委員から出された「公民館の活性化に向けて」の建議を踏まえ、公民館でプロジェクトチームを組んで「公民館のあり方」について、外部有識者等の意見を参考に報告書を作成した。

3. 上記2に対する評価

(1) 非常勤公民館長及び公民館運営審議委員の委嘱

外部有識者等の人的資源を活用し、活発な意見を伺った結果、市民ニーズに対応した講座等を実施することができた。

(2) 貸館業務管理人の配置

窓口の受付業務が適切に行われたことにより、年間 109,992 人の施設利用者への貸館業務が円滑に処理され、利用者へのサービスの提供が向上した。

(3) 「公民館のあり方」報告書の作成

公民館のあり方について、プロジェクトチームで検討し、また外部有識者の意見を参考にして、今後の事業運営をするうえで一定の方向性を導きだした。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「公民館は、市民ニーズの変化に伴い、地域の人々がもっとも身近に学習や交流の場として利用が図られるように、非常勤等の外部有識者の活用を積極的に進め、市民が利用しやすい施設運営に努めていく。」としていたが、24年度は、積極的に外部有識者の活用をした結果、市民ニーズの多様化、変動する社会情勢の中で教育、文化の向上、人づくり、地域づくり等のために、地域住民にとって最も身近な学びの場で交流の場となる市民が利用しやすい施設運営を図ることができた。

4. 25年度以降の取組み

(1) 公民館の施設整備等について

桶川東公民館は、耐震補強工事に伴い平成25年6月1日から平成26年3月31日まで休館となる。この工事に合わせて利用者からの要望を受け、大規模改修として施設更新を行う。

加納公民館は、地震に対する耐震性が著しく低いことから耐震補強工事を行うとともに、バリアフリー化や老朽化した床の張替えなどの施設更新も合わせて行う。

また、公共施設の予約システムについて市全体の公共施設予約システムの構築を検討する中で、公民館の予約申込みも組込めるよう全庁的な取組みに合わせて検討していく。

(2) 「公民館のあり方」の取り扱いについて

「公民館のあり方」についての方針に沿って、平成24年度においては市民との協働事業として「ボランティア人材育成支援事業」を実施した。今後も課題を整理し、(仮称)地域住民協働実行委員会を立ち上げるなどして、市民との協働の公民館づくりの推進に努めていく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	講座開催事業		公民館
予算額	1,257,000円	決算額	1,158,866円

1. 事業概要

市民の多様な学習ニーズを捉えて公民館講座を開催した。

2. 事業実績

公民館運営審議会の意見や講座参加者からのアンケート調査等を基にし、4公民館では主催事業として50事業、延べ3,200人の参加による講座を実施した。

[平成24年度における各公民館における講座の実施状況]

公民館	講座実施状況	参加人数
桶川公民館	太極拳講座 他9事業	424人
桶川東公民館	パソコン基礎入門教室（入門編） 他13事業	921人
加納公民館	キムチづくり講座 他16事業	598人
川田谷公民館	切り絵教室 他4事業	57人
全公民館共通	幼児・家庭教育セミナー、ふれあい学級 他2事業	1,200人

[講座実施状況の推移]

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
講座数	34	36	31	39	50
参加人数	2,415人	3,012人	2,804人	2,692人	3,200人

3. 上記2に対する評価

時代に即したテーマを取り入れながら、多様な学習の機会を提供する講座を実施した結果、自主的サークルが発足するなどして、公民館活動の充実が図られた。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

「講座開催事業予算が減少する中、市民の学習意欲を満たすために、多様な学習機会の核となる講座を開催していく。さらに、参加しやすい日時等を設定し、公民館活動の充実を図っていく。」としていたが、24年度は、限られた財源を有効活用し、市民等の意見を取り入れ工夫をしながら多様な学習機会を提供した。また、休日や夏休み等に講座を行うなどした結果、多くの参加が得られた。

4. 25年度以降の取組み

(1) 講座の実施

市民ニーズを的確に捉え、引き続き時代に即したテーマを取り入れた魅力ある講座を企画していく。また、参加しやすい日時を設定する等、現役世代の参加を促す工夫を検討する。

(2) 協働事業の実施

ボランティア養成講座等を通して市民と協働の公民館づくりのため、平成25年度においては協働事業として、「いきがづくり支援事業」を実施する。今後も課題を整理し、市民との協働の公民館づくりの推進に努めていく。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	管理運営事業	図書館	
予算額	85,151,000円	決算額	84,694,509円

1. 事業概要

図書館サービスの充実を図るため、図書館の維持管理業務委託を行った。

2. 事業実績

(1) 図書館サービス業務委託

委託料：35,998,200円

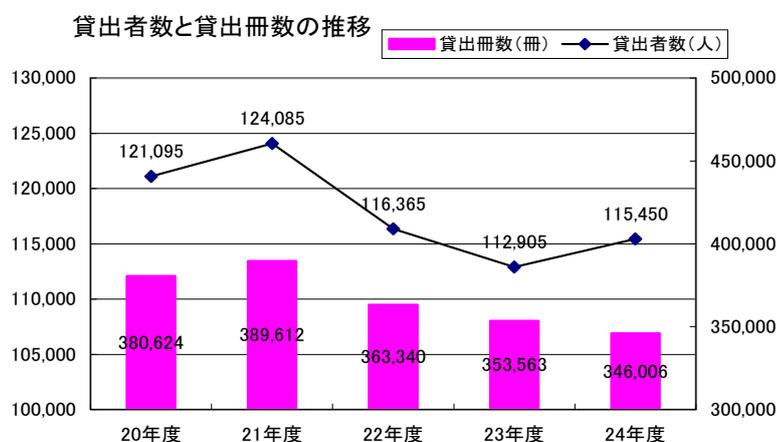
配置従業員数：駅西口図書館：14名 川田谷分室：1人

(2) 駅西口図書館借上業務

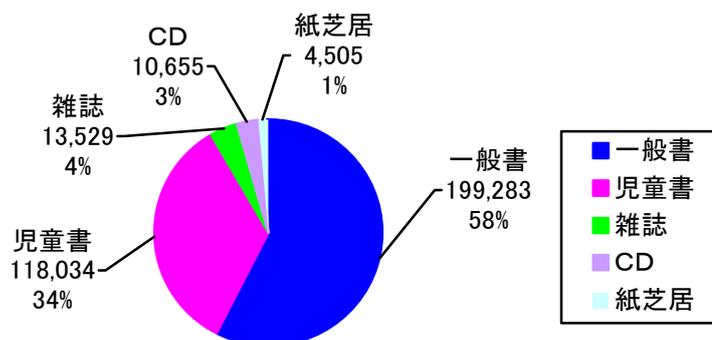
借上料：19,404,000円 負担金：6,581,910円（共益費負担金）

(3) 窓口業務の実績

① 貸出者数と貸出冊数の推移



平成24年度貸出内訳(単位:冊)



- ② 参考調査への支援件数
平成 24 年度実績 : 13,540 件 (平成 23 年度実績より 増 1,445 件)
- ③ リクエスト処理件数
平成 24 年度実績 : 34,587 件 (平成 23 年度実績より 減 2,367 件)

3. 上記 2 に対する評価

(1) 貸出者数及び貸出冊数の増減

貸出者数については 3 年ぶりに増加したが、貸出冊数については減少した。その原因としては、以下の理由が考えられる。

- ① システム入替などによる臨時休館日が減少したため、利用者数の増につながった。
- ② インターネット等の普及により、図書貸出数が減少している。
- ③ 広域相互利用が進み、市民の上尾市等隣接自治体での図書館利用が増加した。

(2) 参考調査への支援件数の増加

利用者の学習・研究・調査を支援するためのレファレンス業務は、図書館の重要なサービスの一つである。窓口や電話による件数が増加したことは、レファレンス業務の認知度が高まったものと考えられる。

前年度の点検評価報告書の「24 年度以降の取組み」に対する評価

- (1) 「第 5 次総合振興計画のもと、図書館サービスのあり方を再検討し、図書館の将来像に関する指針を策定する。」としていたが、図書館サービス基本計画の素案について図書館協議会で協議した。
- (2) 「情報提供機関としての図書館機能の見直しを行う。」としていたが、利用者が利用できるインターネット端末を西口図書館に 3 台設置し、図書館合計 5 台の設置となり機能を充実させることができた。
- (3) 「快適な図書館環境の実現」としていたが、市立図書館の照明を LED 化する工事を行い、節電対策を図った。また、備品として無料のコインロッカーを設置し、利用者の利便性が向上した。

4. 25 年度以降の取組み

- (1) 経費節減に向けて、図書館サービス業務委託のプロポーザル方式による複数年契約を進める。
- (2) 図書館利用者の増加を図るため、学校、保育所等と連携し、児童の利用増を進める。
- (3) 高齢者や視覚に障害のある方に、録音図書などの資料を円滑に提供できるマニュアルを作成し、通常の図書館利用と同様に誰でも利用できる図書館をつくる。
- (4) 市立図書館は、建設後 28 年を経過し、設備の故障等が増加しているため、機械設備や備品について今後計画的な入替等を検討する。
- (5) 中央図書館建設構想の策定については、公共施設配置計画の見直しに沿って検討する。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	図書館業務推進事業	図書館	
予算額	27,358,000円	決算額	27,143,082円

1. 事業概要

多様な学習機会の提供として図書資料を購入し、また、幅広い年齢層を対象に事業を実施した。

2. 事業実績

(1) 図書資料の購入

摘 要	購入冊数	(前年比較)	購入金額	(前年比較)
図書資料	5,042冊	減370冊	9,656,980円	増181,574円

その他資料（地図・法令集・官報等）購入金額 266,227円

(2) 図書館情報システムの活用

サービス：検索・リクエスト 貸出状況確認（館内・インターネット・携帯電話）
ホームページサービス（新着等書誌情報提供・催事情報等）

リクエスト受付実績：館内端末19,316件 インターネット端末5,710件
合計25,026件（リクエスト受付総数の72.4%）

(3) 児童対象事業

事業名	実施日	実施の場所	参加者
子ども読書の日記念事業	4月28日	駅西口図書館	60名
夏の特別おはなし会	7月20日	さいたま文学館	35名
夏休み映画会	8月26日	川田谷生涯学習センター	28名
冬のおはなし会	12月18日	桶川市民ホール	22名
おはなし会	毎週土曜日128回	各図書館	延べ910名

(4) 成人対象の事業

○文学散歩

桶川が舞台の小説「不二」（安藤鶴夫作）ゆかりの地めぐり 11月28日 参加者15名

○図書館利用者団体への活動支援

読書会、実作サークル（29団体）に対する活動場所の提供と貸出文庫活動等

(5) ボランティアとの協働実施事業

○「彩の国教育の日記念子ども読み聞かせ教室」

実施日：10月28日、11月4日 桶川公民館 83名

参加者：読み手12名、ボランティア10名、聞き手36名

○高齢者及び障害者サービスの充実

視覚に障害がある方などを対象とした対面朗読の実施 対象者 延べ30人

3. 上記2に対する評価

(1) 図書資料の購入

5,042冊の資料を購入し、蔵書を更新できた。また、市民1人当たりの図書購入費は、前年と比較すると県下の平均に近づいた。

(2) 図書館情報システム

図書館情報システムを運用することによって、館内及びインターネットに接続するパソコンや携帯電話から、利用者自らが図書の検索及びリクエストを行うことが可能となり、リクエスト受付総数の70%以上がシステム端末の利用によるものとなっている。

このことにより、迅速なリクエスト対応が可能となり、利用者の利便が向上するとともに、システムによる自動処理によって、事務負担が軽減している。

(3) 児童対象事業

ボランティア団体の協力や支援を得て実施した。昨年の実績を上回る参加があった。

(4) 成人対象の事業

文学散歩を実施した。読書会、実作サークルについては、活動場所を提供し、その活動を支援することができた。貸出文庫については、他の図書館との相互利用によって希望の冊数を確保し、提供することができた。

(5) ボランティアとの協働実施事業

ボランティア団体との協働実施事業として、子どもへの読み聞かせの指導と子どもから子どもへの読み聞かせの実践ができた。また、視覚に障害がある方などを対象に、対面朗読をボランティアの協力を得て実施した。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

(1) 「市民が快適に過ごすことができる環境の整備」としていたが、ヤングアダルト（青少年）コーナー、大活字本コーナー、育児本コーナーを設け、容易に目的の資料を提供できるようになった。

(2) 「高齢者及び障害者サービスの充実」としていたが、録音図書の貸出について、受付体制を整えた。また、駅西口図書館に対面朗読の専用スペースを設置することができた。

(3) 「デジタル情報提供の強化」としていたが、パスワードの登録によって、自宅のインターネットからの図書資料の検索・予約等が容易に利用できるようになった。

(4) 「ボランティア団体との協働による事業の展開」としていたが、ボランティア育成講座を開催し、読書会活動等について周知することができた。

4. 25年度以降の取組み

(1) 図書館で利用できるデータベース等の電子書籍活用への対応を促進するため、図書館利用者に対する研修を行う。

(2) 読書会活動を推進するボランティア育成講座を開催し、ボランティアの育成に努める。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	施設の充実（2045）		
事業名	生涯学習センター管理事業		歴史民俗資料館
予算額	24,676,000 円	決算額	23,780,996 円
1. 事業概要			
生涯学習の拠点となる3つの社会教育施設が、それぞれの基本理念を達成できるように適正な施設の維持管理等を行った。			
2. 事業実績			
市民に多様な学習機会を増やし、提供できるような施設面の整備や備品の更新等に努めた。			
(1) 生涯学習センター			
○エントランスホール、研修室、図書館分室開架室、資料館展示ホール等			
非常用照明器具の不点灯について指摘を受けた15箇所について修繕を行った。 409,500 円			
○事務室			
講座等で使用するプロジェクターを新規購入した。 45,800 円			
ホームページに掲載するデータを取り込むためにスキャナーを新規購入した。 275,000 円			
公文書及び個人情報の適切な処理をするためにシュレッダーを新規で購入した。 25,800 円			
○委託業務			
生涯学習センターの設備管理、清掃、環境衛生等について業務の委託を行った。			
15,479,000 円			
(2) 公民館			
○スポーツホール			
開館当初から20年使用していた音響設備が老朽化したことから買替えを行い、利用者の利便を図った。 588,000 円			
(3) 図書館			
個人情報の適切な処理をするためにシュレッダーを新規で購入した。 25,800 円			
(4) 歴史民俗資料館			
○資料整理室1			
展示等で使用するパネルを作成するためのプリンターを更新した。 493,710 円			
3. 上記2に対する評価			
(1) 施設の共有部分又は各施設において従前より指摘を受けていた非常用照明器具の不点灯箇所について、修繕することができ、利用者への安全性を確保することができた。			
(2) 利用頻度が高く故障等が目立った備品については更新を、要望が多かった備品については新規に購入することができ、利用者の快適性や利便性が向上された。			
(3) 業務の委託を行った清掃等については、市内在住又は市内の障がい者施設、作業所へ通所している者の雇用も図られ、生涯学習センター利用者並びに来館者に対し、快適な環境が提供できた。			

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

- (1) 「今後計画的に機械設備や備品の入れ替え等を行っていく。」としていたが、一部の施設設備、備品等については修理・修繕を行い、また新規に購入をすることができた。
- (2) 「LED化について、早期に実現できるよう関係部署との調整を図る。」としていたが、課題ヒアリング、実施計画等でも要求してきたが、予算化することはできなかった。

4. 25年度以降の取組み

- (1) 川田谷生涯学習センターは、建設後約20年を経過しており、機械設備、備品の不具合や故障、修理が増えている。よって、今後は改修計画等を作成し、対応していく。
- (2) 川田谷生涯学習センターの大規模なリニューアル改修工事を実施していく。
- (3) 隣接地に建設が予定されている「道の駅」との調整や連携を図る必要がある。

点検評価シート

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承 (206) 生涯学習・生涯スポーツの充実 (204)		
基 本 事 業	文化財の保存と継承 (2064) 多様な学習機会の提供 (2041)		
事 業 名	歴史民俗資料館の運営事業		歴史民俗資料館
予 算 額	2,969,000 円	決 算 額	2,760,993 円

1. 事業概要

地域文化保護活動の拠点である歴史民俗資料館において、講座や展示などの事業を実施した。

2. 事業実績

(1) 歴史民俗資料館の入館者

入館者については、下表のとおり昨年度に比べて増加している。

[入館者数の推移]

年 度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	27 年度
入館者数 (人)	8,674	9,348	9,012	11,247	12,417	目標値
開館日数 (日)	287	289	287	297	279	12,000 人

(2) 展 示

「中山道六十九次切り絵の旅—美濃・近江国編」 6月9日～7月1日

「里帰りする桶川の地中の宝物」 10月27日～12月9日<新規事業>

「紅花と桶川2012」 6月16日～7月1日

「むかしの暮らしと道具展2012」 10月6日～11月24日

(3) 講座活動

○特別文化財講座

テーマ：「縄文文化を知る」<新規事業>

開催日：10月27日・11月11日、17日・12月15日 参加者数：99人

○文化財講座

テーマ：「行田市における足袋蔵の保存・活用について」<新規事業>

開催日：2月17日 参加者数：20人

テーマ「歴史的建造物矢部家住宅について」<新規事業>

開催日：2月24日 参加者数：20人

(4) 紅花関連

「紅花染め体験」

開催日：6月24日 参加者数：37人

(5) 学校との連携（埼玉大学学生及び桶川市ガイドボランティアの協力）

小学校3年生社会科「むかしの暮らしを調べる」見学 対象：市内6校

(6) 夏休み期間中の子ども向け事業

テーマ：「親子で挑戦—土器、土偶を作ろう」

開催日：7月25日と8月25日 参加者：24人

(7) 桶川駅東口「みるみるコーナー」での展示

開催日：1月15日～1月31日

3. 上記2に対する評価

上記の(3)については、実施回数を増やした結果、(1)にあるとおり27年度目標値より1,170人増加することができた。新規事業が充実していた成果といえる。

「展示」及び「夏休み期間中の子ども向け事業」、「小学校3年生の社会科見学」については、市民サークル4団体、また埼玉大学の学生の協力や支援を得て、事業を実施することができた。

前年度の点検評価報告書の「24年度以降の取組み」に対する評価

- (1) 「歴史民俗資料館が蓄積する資料を市民の利用に供するために、調査資料のファイリング等を的確に実施する。」としていたが、古文書・写真・図書等の一部について整理し、市民の利用に供することができた。
- (2) 「より積極的に保存策を必要とする資料については、そのための良好な保存環境を整備する。」としていたが、重要文化財となった後谷遺跡の出土品について、生涯学習スポーツ課と協議をしながら適切な保存環境の整備を進めた。
- (3) 「資料の公開・普及にあたっては、地域の課題を積極的に取り上げる。」としていたが、桶川の遺跡からの出土品を一堂に会する展示会を1回、また重要文化財となった後谷遺跡についての連続講座を4回、そして新たに市指定の有形文化財となった「矢部家の建造物」についての講演会を2回行った。
- (4) 「市民サークル団体との連携による事業の展開を図る。」としていたが、小企画展の展示解説や小学校3年生社会科見学の際の見学対応、また夏休み期間中の子ども向けの講座において連携を図り、事業を実施した。
- (5) 「隣接地に建設が予定されている「道の駅」との調整や連携を模索する。」としていたが、庁内調整会議等での経過を踏まえ、その時点での適切対応をした。

4. 25年度以降の取組み

引き続き市民が地域文化に対する理解を深め、また地域文化の保存伝承に参画できる歴史民俗資料館の運営を目指して以下の事項に努める。

- (1) 歴史民俗資料館が蓄積する資料を市民の利用に供するために、調査資料のファイリング等を計画的に実施する。
- (2) より積極的な保存策を必要とする資料については、引き続きそのための良好な保存環境を整備する。
- (3) 資料の公開・普及にあたっては、地域の課題を積極的に取り上げる。
- (4) 市民サークル団体や青少年団体との連携による事業の展開を図る。